324
282

軍事學指針社編纂

# 現地講話全

東京
軍事學指針社

324-882

軍事學指針社編纂

# 軍事講話全

東京

軍事學指針社

明治
44. 4. 8
內交

# 緒言

現地講話は其目的素より戦術の研究にあり然れとも其研究事項に至りては圖上戦術と其趣きを異にせさるへからす即ち圖上戦術に於ては地形の細部に關して研究すること能はさるも現地講話に於ては戦術に及ぼす地形細部の關係地區地物の利害を遺憾なく研究することを得へく又研究せさるへからす從て該書を單に圖上に於て研究する時は往々判斷し能はさることあらん然れとも該演習地は幸に一般に圖上と大差なきのみならす圖上に於て研究し得る如く稍々訂正しあるを以て戦術研究者の爲め又參考の一助たるを得んか

左に圖上に於て研究し能はさる事項を擧く

一　氷田は概して淺く戦時武裝の兵卒も漸く足首の上約一二寸を没す（冬期より五月頃迄は麥畑なり）

二　黄瀬川、狩野川及三島、中島間に流るゝ水流は殆んと徒渉を許さす

三　高地は概して斜面急にして且つ雑樹繁茂す

所要地圖

靜岡　二十萬分一

沼津　三島　二萬分一

韮山　修善寺

# 現地講話目次


第一　想定

軍隊區分……二

旅團長の決心……四

決心に伴ふ處置……九

東海道方面尖兵長の處置……一〇

前衛中隊長の處置……一一

混成旅團長の處置……一三

宿營に關する命令の要旨……一六

旅團長の情況判斷……一七

夜間戰鬪に關し……一八

利害……一八

成効に對し具備すへき條件……一九
夜襲の時機……二一
混成旅團長の決心……二六
攻撃準備陣地占領に關し……二七
砲兵陣地……三一
攻撃方面に關し……三六
攻撃準備陣地に關し……三八
攻撃實施に要する旅團命令……四二
右命令作爲に關する注意……四四
砲兵戰鬪の概要……四六
砲兵隊長の處置……四八
主力方面歩兵の戰鬪……五一
歩兵第三聯隊長の展開の順序方法……五一
同　命令……五二
同　命令の要旨……五四
右翼第二大隊の展開……五五
想定に關する主なる研究事項……五九
**第二　想定**
軍隊區分の研究……六二
支隊長の決心……六四
決心に伴ふ處置……六五
支隊本隊の進路及隊形……六七
騎兵隊長の處置……六八
前衛司令官の處置……七〇
情況判斷に基く處置の略圖……七一
略圖の作爲方に關し……七三

展開法に就ひて……七四
支隊長の處置……七五
中隊長の處置……七七
砲兵陣地偵察……七七
想定に關する研究事項……七九
**第三　想定**
追撃隊の部署……八二
砲兵の位置に關し……八五
追撃隊の軍隊區分……八七
本隊引率官の處置……八八
前衛司令官の處置……九〇
追撃隊長の處置……九〇
尖兵長の處置……九一



前衛司令官の決心……九二
右決心に伴ふ部署……九三
砲兵陣地の撰定……九五
砲兵隊長の處置……九八
追撃隊長の決心……一〇〇
攻撃配備……一〇一
攻撃點の撰定……一〇二
砲兵陣地……一〇三
追撃隊長の位置……一〇五
想定に關する研究事項……一一〇
**第四　想定**
支隊長の決心……一一四
陣地占領掩護隊に關し……一一八

將校斥候の偵察……一二〇
敵の主攻撃方面並に陣地に於ける兵力部署……一二四
右翼地區の左翼散兵壕構築要領……一二八
平井村北側谷地の地形判斷……一二八
陣地の最右翼……一二九
地區豫備隊の位置……一三〇
想定に關する研究事項……一三二


**第五　想定**


前衛司令官の決心……一三八
右決心に伴ふ處置……一四〇
想定に關する研究事項……一四六


# 現地講話目次　終

# 現地講話

## 第一　想定

一　箱根足柄兩街道を守備すべき任務を有する西軍混成旅團は一月十四日午後二時過き其歩兵の先頭を以て大諏訪、東椎路の線に達す」當時旅團長は前衛本隊の先頭に在りて左のことを知る

1　本日午前十一時頃箱根街道上市山附近を通過西進したる歩兵約一聯隊を基幹とする諸兵連合の敵は午後零時三十分頃三島に進入し三島西端附近に陣地を占領しつゝあるものゝ如し

2　我騎兵中隊は午後一時頃辛ふして黄瀬川左岸長澤及本宿附近にありて敵騎と相對す

3　足柄街道方面に派遣したる將校斥候の報に依れは本日午前九時頃神山附近に達せしも未た敵兵を見すと

## 二　混成旅團の編組

旅團司令部
歩兵第三聯隊　機關銃隊一隊を附す
同第四聯隊の第一大隊　機關銃二銃を附す
騎兵第一聯隊第一中隊と一小隊
野砲兵第一聯隊第一大隊（第三中隊欠）
工兵第一大隊第一中隊
衛生隊半部
備考　一、箱根、足柄街道は共に野砲の通過支障なきものと假定す
二、黄瀬川は鐵道橋より上流諸所徒渉場あり
三、圖上水田は目下麥畑にして諸兵の通過支障なし

## 問題

西軍混成旅團長の決心
右決心を研究するに先ち當時旅團の軍隊區分を左の如く決定す
獨立騎兵
騎兵第一聯隊第一中隊
前衛
司令官　歩兵第三聯隊長某大佐
歩兵第三聯隊第一大隊　機關銃二銃を附す
野砲兵第一聯隊第一中隊
工兵第一大隊第一中隊（二小隊欠）
左縱隊
長　歩兵第四聯隊第一大隊長某少佐
歩兵第四聯隊第一大隊　機關銃二銃を附す
騎兵一分隊

工兵一小隊
本隊(同行軍序列)
旅團司令部
歩兵第三聯隊第二大隊
野砲兵第一聯隊第一大隊(二中隊欠)
工兵第一大隊(第一中隊の一小隊)
歩兵第三聯隊第三大隊
衛生隊半部

右軍隊區部の外に足柄街道方面に騎兵一小隊(一分隊欠)を將校斥候として派遣しあり

旅團長の決心に左の數種あり

1 七反畑と西熊堂の線に停止せんとするもの　理由の主とするところは足柄街道方面に顧慮し旅團の黄瀬川附近に達する頃には既に足柄街道方面より敵兵南下し來り三島附近の敵と合するものと判斷せしか如し而して此兩方面の敵に對し渡河點少き黄瀬川を渡過して左岸に進出するは頗る危險にして寧ろ安全なる地形にありて敵情を偵察し果して兩方面の敵兵合する時は攻勢的陣地を占領し敵の半渡を攻撃し若し未た尚ほ足柄方面に敵兵現出せさる時は本夜半に乘して黄瀬川を渡河し三島の敵を攻撃せんとするにあり

2 一部を以て黄瀬川渡河點を占領せしめ主力は岡宮附近に停止せんとす

3 黄瀬川、右岸黄瀬川村、上石田の線に停止せんとす

4 速に黄瀬川左岸に進出せんとす

足柄街道方面に關しては旅團は固より大なる顧慮を要す然れと

も未た敵兵を見さるに既に本日中足柄街道方面より敵兵南下し來るものと判斷するは早計たるを免れす又本日該方面の將校斥候第一回の報告後何等の報告なきは所謂情況の不明にして此不明の情況を以て敵兵の南下を豫期するは之れ又決して正當の敵情判斷と言ふ能はさるへし要するに旅團は任務を基礎として決心せさるへからす任務は敵を擊攘するを要求す敵を擊攘せんとすれは須く先つ黃瀨川の大障碍を通過し置くの必要あり兩敵の合すると否とは第二の處置に屬す此際徒に黃瀨川右岸の地區に停止するものは妄に敵情を想像し自ら悲觀の位置に立ち徒に先制の利を放棄し任務を忘却するものと言はさるへからす

旅團長は左の如く決心す

旅團は速に先つ黃瀨左岸の地區に進出せんとす

理由の主なるもの

箱根街道方面の敵は既に旅團に先ち三島町に進出し目下陣地を占領しつゝあるもの、如く足柄街道方面は午前九時以後の敵情に關しては未た全く不明なり而して既に三島町に進出せし敵は今後如何に行動すへきやは今遽に判知すへからすと雖も果して三島町西端附近に陣地を占領しつゝあるものとすれは或は豫期する新來の友軍を待て更に攻擊動作に出るか又は旅團の黃瀨川半渡に乘せんとするにあらさるなきか盡し劣勢の兵力を以て而も黃瀨川の障碍を越へ孤立戰鬪を開始するは敵の爲め最も不利にして旅團の爲めには却て希望する所なれはなり

旅團は前面の敵を攻擊せさるへからさるは任務の命する處にして只た其攻擊時機の如何にあるのみ而して該時機は主として足柄街道方面の情況に關するものとす既に時機の如何に關せす攻擊に決す之れか爲めには旅團將來の戰鬪を顧慮し適宜の地區に

進出しあるを必要とす

豫想する敵陣地の前方にある黄瀬川は鐵道橋以北は諸所徒渉場ありと雖我旅團の爲めには鮮なからさる障碍たるを失はす殊に夜間の運動に於て然りとす即ち旅團は出來得れは本日中に黄瀬川の障碍を越へ以て旅團今後の攻撃の爲め之れか便益を計らさるへからす況んや既に我騎兵は辛ふして黄瀬川左岸の地區を占領しあるに於ては之か利益を確保し且つ之を增大し以て旅團將來の行動を容易ならしむるを以て目下の急務とせさるへからす而して豫想する敵陣地其他一般の地形を觀察するときは主力を以て鐵道橋以北の地區に進出するを有利とす蓋し該方面は比較的蔭蔽して敵に接近し得ると尙ほ敵陣地より瞰制せらるゝことなり少なく且つ後方黄瀬川は東海道方面に比し運動の便至大なれは處置左の如し



## 處置

一 前衛の内歩兵大隊長の指揮する歩兵第一大隊機關銃二銃をして急行長澤を占領せしむ

二 前衛中にありし工兵中隊（二小隊欠）は上石田に至りて本隊に合せしむ

三 左縱隊をして竹原附近を占領せしむ

四 騎兵は現在地附近にありて歩兵の到着を待ち更に敵情を捜索せしむ

五 本隊は上石田に向て直行

野砲兵大隊は長澤占領隊に續行下石田より上石田に至らしむ

六 旅團長は急行して歩兵第四聯隊の第一大隊と共に竹原に至らんとす

但し歩兵聯隊長砲兵隊長を伴ふ

## 七　工兵中隊長をして徒渉場附近の偵察を爲さしむ

### 狀　況

午後二時三十分頃我騎兵中隊は敵の騎兵及歩兵部隊と交戰し逐次右岸に退却しつゝあるを知る

午後三時三十分過長澤占領部隊は其先頭を以て下石田附近に左縱隊は岡宮南端附近に達す當時黃瀨川を狹んで激烈なる銃聲を聞く間もなく敵の歩兵は逐次黃瀨川右岸に現出し我騎兵に向て戰鬪を開始す

黃瀨川　方面の敵は目下約一小隊半を算し尙ほ續々增加の模樣あり

上石田方面の敵は約一小隊にして尙ほ逐次增加しつゝあり

東海道方面の尖兵長は何を爲さんとするや

尖兵は獨力を以て直ちに騎兵を赴援せんとするもの或は直ちに黃瀨川村東端を占領せんとし又は前衛中隊長の指示を待つものとあり

此際獨力を以て戰鬪を開始するは至當の處置と云ふ能はす蓋し敵の兵力は既に我兵より優勢にして尙ほ續々增加するの模樣なるを徒に各個に損害を受くるの不利あるのみ宜しく沈着して敵情を監視し前衛中隊長の指示を受くるを適當とす

前衛中隊長は如何に決心するや

前衛中隊長は尖兵長の如く大隊長の指示を待たんとするは時機に合せさる決心なり宜しく獨斷を以て獨力前面の敵を擊攘するの勇氣を奮起せさるへからす

該情況に於て基より尖兵長の位置には前衛中隊長は既に急行しあり又大隊長も急行しありて尖兵長及前衛中隊長として共に適宜大隊長の意圖を指示せらるゝは實戰に於て勿論

歩兵操典第二部第四十三第二項各級指揮官の獨斷專行を要すること實戰より甚しき

はなし故に百方手段を盡し以て上級指揮官の意圖を滿足せしむる如く動作すること必要なり同第四十四、前衛司令官は指揮官の指示に從ひ又要すれは獨斷を以て前衛を部署し時機を失せす其任務を完ふすることを勉むへし戰鬪の支撐たるへき要地は縱ひ戰鬪を惹き起し又は正面過廣となるの虞ありと雖之を占領することに躊躇すへからす前衛內の各指揮官も亦此要領に準して動作すへし



なり爰に問題を設けしは單に學修上の一手段に過きさるなり

又此場合の狀況は遭遇戰なるや否や本より明ならすと雖も上記遭遇戰の原則に從て研究するを適當とす

大隊長は前衛中隊長の決心を是認し次て急行し來る大隊の先頭中隊より逐次黃瀨川村の東南、東北端兩方面に展開を命し敵を攻擊す

上石田方面に於ては我騎兵は漸次岡一色方面に退却し敵の步兵は上石田西端に現出す

我左縱隊は東海道方面の戰鬪の如く前面上石田の敵を攻擊す

情況

黃瀨川村、上石田の兩方面共に稍々激しき戰鬪の後敵を擊退して午後五時頃各所命の地を占領するを得たり

兩方面の敵は各步兵約一中隊にして三島町に向て退却せり

當時我本隊は高田附近に砲兵は日吉附近にあり

混成旅團長は今より何を爲さんとするや

旅團長は今や既に日沒に近きの故を以て兩大隊をして所命の地點を占領せしめ主力を以て高田附近に宿營せんとするもの或は主力を以て岡宮附近に又は小林附近に宿營せんとするものあり

以上は共に時機に適したる處置と言ふへからす

又主力を以て豫定の如く上石田附近より黃瀨川左岸に進出せんとするものあり之れ又時機に合せさる處置なり

旅團は本隊をして上石田附近に開進せしめ豫定の如く聯隊長及砲兵隊長を隨へ天神原附近に急行して敵陣地の偵察及ひ一般の觀察を爲さんとす

地形及ひ敵情を偵察するは今後の決心の爲め極めて必要なり之れ

歩兵操典第二部第一第二項　高級指揮官は其の他所要の指揮官を隨へ狀況の許す限り敵方に近く其位置を占め彼我の狀況特に地形を觀察し警戒部隊等に動作の憑據を與へ敵に對して自己の利益を獲得することを圖り要すれは本隊をして開進せしむ　同第四十八　防禦陣地を占領せる敵に對しては攻者は通常敵情及地形を偵察し攻撃の時期、方向及方法を選ふ爲に要する時間の餘裕を有するものとす故に指揮官は豫め綿密なる計畫を定め且十分なる準備を爲すを要す

か爲めには月光の許す限り之れを實施するを要す

時間は既に我本隊の左岸に移るを許さす蓋し左岸に移るは殆と日沒後にして月光も亦た未た明ならす而も地形の偵察等は十分なるを得す從て萬一の夜襲を受くるに當り之れに應するの準備決して完全を期すへからす却て徒に混亂を生するの恐れあり之れ時間に依りて兵力の部署及配布の異なる所以なり如かす主力は右岸に止めて混亂を避け既に占領し得たる部隊をして今後の礎地を確保せしむるを以て滿足せさるへからす

狀　況

旅團長は陣地の偵察並に一般の觀察を終り上石田に歸還す時に午後六時稍過き諸隊は漸く開進を終れり時に月光は密雲に覆はれ四面漸く暗く竹原及新宿附近には時々銃聲を聞き各村落共に野犬の吠聲喧し

旅團長の敵情偵察及ひ一般地形の觀察は左の如し

一、敵は三島町西北小松宮別邸西北約三百米の小森林附近より本覺寺西南約四百米の無名詞附近を經て東海道附近に亘り陣地を占領しあるもの、如く又其砲兵陣地の如きものは△392及無名詞附近にあるか如し

二、北部下土狩には稍々抵抗力を有する敵の歩兵部隊ありて我諸斥候の進入を許さす

三、竹原東端附近、天神原南方約三四百米の無名詞北端畑地及小林高地附近は共に我砲兵陣地と爲すを得へし

又我左縱隊たりし歩兵第四聯隊第一大隊の部置左の如し

第一中隊を以て竹原東端を第二中隊を以て下土狩東端を占領せしめ第三中隊をして鮎壷北端附近に於て足柄街道方面の警戒に任し第四中隊は豫備として南部下土狩西端鐵道線路三叉



敵陣地の價値は攻撃計畫に多大の影響を與ふるものとす故に其偵察は獨り騎兵及前衛等の報告に依るの外指揮官自ら百方手段を盡して之を爲さゝるへからす

點附近に位置す

其他一般の地形は圖上に於て判斷する處の如し

午後六時三十分旅團長は宿營に關する命令を下す其要旨左の如し

命令の要旨

一、敵は三島町西端附近に陣地を占領し北部下土狩には歩兵の一部隊占領しあり

二、旅團は本夜上石田附近に宿營せんとす

三、歩兵第一聯隊第一大隊長の率ゆる諸隊は現在地附近にありて主として東海道方面を警戒し敵襲に當りては其地を死守すへし

四、歩兵第四聯隊第一大隊長の率ゆる諸隊は現在地にありて夜を徹すへし但し敵襲に當りては死守すへし

五、騎兵中隊は小林附近に宿營し足柄方面を警戒すへし

六　本隊諸隊は上石田西方畑地に露營すへし

七　第一線諸隊は携帶口糧を使用し本隊諸隊は大行李を用ゆへし但し炊爨終れは大行李は沼津に至り宿營すへし

狀況

午後八時三十分足柄方面の將校斥候より報告あり其要旨左の如し

一　正午頃敵の騎兵約半小隊と御殿場に於て遭遇し之を擊退すも弱なるも後續隊あるもの、如し

二　午後二時頃敵の歩兵竹之下に到着し南下するを知る兵力微午後九時三十分に於ける旅團長の情況判斷

各旅團長の情況判斷を區別すれは左の如し

一　旅團は直ちに前面の敵を夜襲するを要す

二　旅團は本夜半前面の敵を夜襲するを要す

三　旅團は明拂曉前面の敵を攻擊するを可とす

右諸判斷は共に同意する能はさるを遺憾とす今左に聊か夜間戰鬪に關し陳述せんとす

夜間戰鬪の利害

利

1 兵力企圖を秘し損害を避く

害

1 夜は宇宙萬物の休憩時にして吾人に眠睡の必要なるは恰も食物と同一なり

2 夜間は凡ての地物盡く其趣きを異にす又勇者も怯者となるの恐れあり

3 以上の他指揮の不統一友軍相擊の害及一般に關する混雜等は夜間に於て往々免るへからさるの害あり

地上一個の燃燒せる木片は終に全隊を逃走せしめたるの例あ



り

成効に對し具備すへき條件

1 嚴正なる軍紀及鞏固なる團結と旺盛なる志氣

2 防者に於ける勤務の怠慢

3 土民の援助

4 敵陣地の薄弱

5 彼我兩軍の陣地間に於ける僅少なる距離

6 地形及敵陣地の熟知

殊に成効の要訣は不意に敵に肉薄するを必要とす

實施に方り必要なる件

1 百方手段を盡して精細なる計畫を要す

之れか爲め敵の位置成し得れは其配備並警戒の方法等を熟知するを勉め苟も我動作に關係する地形は晝夜を問はす十分に之を

偵知し其利害得失を研究すへし而して成る可く晝間に於て各隊長を集めて其命令を下し各隊をして細部に亘る事件に至るまて精密なる研究を遂けしめ之れか實行に際し毫も凝滯なからしむるを要す

偵察に關する要件を列擧すれは左の如し

敵に對する近接路、道路の狀態、警戒隊の配置警戒隊と眞の陣地との距離障碍物の有無種類、本陣地の位置及延長、行進方向を決定し得へき地物

要するに以上諸件を研究顧慮するときは夜襲は多く左の場合に生するを自然とす

敵か警戒勤務を怠り且其前に於て敗戰の影響を受くるか

敵の挺出せる小部隊か不意の攻撃に暴露しあるか

或は勝敗を決せさる會戰後に於けるか如く彼我兩軍の接近する時

故に敵情を熟知するを以て常に最も必要とする夜襲は運動戰に於ては極めて不便なり蓋し運動戰に於ては敵情と地形とを捜索偵察することと常に不充分なれはなり從て要塞戰に多く殊に小企圖に於ける或は支撐點の奪略の爲め其他警戒隊等の襲撃等に於て屢々發現するものなり

夜襲の時機

黎明を以て突撃を決行せは夜暗の爲に蒙るへき混雜は幾何もなき除去せらるゝを以て大部隊に在りては此時機を選定するを可とす夜半夜襲の後敵を追撃し得るは只た天明を俟つの外なく其他にありては單に敵陣地を奪取するに止まるのみ

夜半は敵の警戒最も弛緩すへき時なり然れとも奏功後の整備は最も困難なり故に大部隊を以てするに適せす

薄暮は突撃に至る迄の指揮連繋整ひ準備運動容易なるを得へし
殊に薄暮は活動の狀態より靜止の狀態に一轉するの時機なるを
以て勢ひ戰鬪の顧慮欠乏するに至るを以て意外の奇功を奏する
ことを得へし然れとも奏功後の混雜は夜半に同しきの不利を免
れす

以上の如く夜間戰鬪に關し研究し來る時は旅團は例ひ夜襲を企圖
すると雖も其成効は極めて鮮なきものと言はさるを得す殊に今よ
り直ちに夜襲を決行せんとするか如きは全く夜間戰鬪に關する原
則要求を放棄したるものにして殆と實行し能はさるものなり既に
研究したるか如く夜襲を決行せんか爲めには適當の準備を要す準
備は更に之れに適應する時間を要求す況んや旅團は漸く日沒稍前
に於て現在地に到着せしにあらすや捜索偵察共に未た極めて不完
全にして殊に夜襲の爲めには何等の偵察を實施しあらさるに於て
は今後適應の時間を要するにあらされは其成効得て望むへからさ
るなり

夜襲決行者の理由の主とする所は足柄街道方面の敵は遲くも本夜
半迄には三島附近の敵と合するか或は我左翼前に到着現出すへき
を以て兩敵の未た合せさるに先ちて先つ前面の敵を擊攘せんとす
るにあり予も亦た該理由に全然同意するものなり蓋本日の夜襲は
其成効の公算極めて少なしと雖も徒に優柔不斷明拂曉を待ち足柄
街道方面の敵をして南下せしむるに於ては旅團は終に黄瀨川左岸
の立脚地を放棄し右岸に於て守勢に陷るの止むを得さるに至り彼
我其位置を轉倒するの愚を見るへきを以てなり然れとも諸君の如
く夜半夜襲を決行することは同意すること能はす何となれは足柄
方面の敵にして果して南下するときは本夜半以前に於て三島附近
に到着するを得へし故に兩敵の合せさるに先ち夜襲せんとせは勢

ひ今より夜襲を爲すを要す然れとも今より夜襲を爲さんとするも其準備を爲すの暇なく準備を爲さんとすれは自然夜半以後に於てせさるを得さるへし而して夜半以後に於て夜襲を爲す時は既に或は兩敵の合するを豫期せさるへからす且つ夜襲の時機に關して研究したる不利も亦た覺悟せさるを得さるへし既に兩敵の合するを豫期する以上は何を苦みて夜半夜襲の不利を犯すの要あらんや

予は既に言へる始く兩敵の合せさるに先ち夜襲を決行するの理由に同意せり然れとも其兩敵の合するを恐るゝは夜間にあらすして明拂曉以後にあるなり換言すれは夜襲を決行するに當りては敢て兩敵の合するを豫期せすして只た徒に明拂曉を待つときは兩敵は相合するか或は互に相呼應して旅團は終に黃瀨川右岸に壓迫せられ又何等爲すこと能はす任務の遂行得て望むへからさるに至るを憂ふるにあり

要するに夜襲は元より旅團の希望する所にあらすと雖敵情は旅團に攻撃の時日を與へす任務は攻撃を要求す

以上の研究に基き旅團は黎明を待て突撃を實施し得る如く今より諸準備を爲すを要す

狀況

午後十時足柄街道上將校斥候より左の報告あり

一　午後二時三十分竹の下に進出せし敵は御殿場附近に停止し其後前進の模樣なく午後四時頃より二枚橋附近に前哨を配置せしか如し其兵力多くも步兵一大隊を上らす

二　信するに足るへき土人の言に依れは後續隊を有するか如きも道路故障の爲め容易に前進し得さるか如し

三　將校斥候は本夜沼田附近にありて捜索を續行せんとす

十里木街道上方面の將校斥候とは連絡せり

右報告に基き旅團長の決心に變更ありや否や

多くの諸君は依然夜襲を決行せんとす卽ち決心に變更なし夜間戰鬪の不利にして且殊に野戰に於ては好んで爲すへき戰鬪法にあらさるは既に前述の如し然るに尙ほ依然決心に變更なきは只た足柄方面の敵の明拂曉迄に南下するを恐るゝか如し敵情は元より千狀萬態常に變化極まりなし御殿場に宿營したる敵も或は間もなく出發南下するやも計るへからす然れとも敵情を判斷すること常に斯の如き時は常に戰々競々として斷乎たる決心を爲すこと能はさるに至るへし確たる敵情の爲めに決心を變更するは固より至當なり然れとも妄に敵情を有利に判斷し又は想像して決心の基礎とするは宜しく避けさるへからす況んや例ひ御殿場の敵にして果して休憩若干の後出發南下するも旅團は適當の處置を施せは又彼れをして隨意に南下する能はさるの手段を講し得るにあらすや

要するに御殿場に到着宿營したる敵は後方道路故障の關係と其宿營地の位置の關係(御殿場は十里木街道と足柄街道の交叉點にして敵の南下の爲めには十里木街道は彼れの最も懸念すへき件にして十里木街道を放棄して南下するは到底爲し能はさる所なり敵兵南下に當りては十里木街道に相當の處置を施すか或は又顧慮なきを確めたる後にあらされは能はさるへし)等より觀察して判斷する時は遽に南下し得るものにあらす從て旅團は元來希望せさる夜襲を決行するの要なきに至れるものと言ふへし故に旅團は明拂曉を期し前面の敵を攻撃するに決するを至當とす

西軍混成旅團明拂曉攻撃の目的を以て攻撃準備陣地占領略圖

旅團の攻撃配備に付ひては各人各其意見を異にし互に利害得失あるは勿論なり今各配備に關する講評を略し一般に關する欠點及誤

解の點を指摘し更に主要事項に關し聊か詳細に研究せんとす

一　拂曉迄に北部下土狩の敵を驅逐し該部落を占領せさるは旅團攻撃の目的に合せす又企圖したる攻撃時機撰定の主旨に合せさるものなり明拂曉北部下土狩の敵を攻撃して更に該部落附近に展開せんとする時は企圖する拂曉攻撃に終は純然たる晝間攻撃に變化するに至るへし

二　右に反して北部下土狩の敵を驅逐し更に進んで數前三四百米に至りて展開せんとするものあり斯くの如きは實際的考案と認め難し蓋し夜間既に敵前三四百米迄接近して整々展開することを得は何を苦んで拂曉を待つの要あらんや直ちに突撃するの優れるに如かさるなり

三　砲兵陣地遠きに過くるものあり決勝を企圖する攻撃の目的に合せす又展開歩兵線の中央後に撰定せしものあり砲火の威力を減殺するの恐れあり要は戰鬪の目的に合し時機に適應し且つ成る可く砲火の威力を減殺せさるに着意せさるへからす

四　第一線兵力の使用普通一般の晝間攻撃に於けると同一なるもの多し未た拂曉攻撃の眞意を解せさるものなり拂曉攻撃は晝間攻撃に比し始めより第一線の兵力を大ならしむるを要す蓋し晝て火力を維待するの時間大なるを以て之れに要する兵力を控置するの必要ありと雖も拂曉攻撃に於ては出來得る限り夜暗を利用して敵に接近し戰鬪を開始すへきものなるを以て始めより火力をして最大限に發揚せしめさるへからす又火力の維持に關しては彼我の距離僅少なるを以て晝間攻撃に比し多くの兵力を要せされはなり

五　足柄方面に對し兵力の寡少なるものあり又は全く皆無なるも

のあり之れ等は共に適當なる處置と言ふへからす既に云へるが如く足柄街道方面の敵は其宿營地及其他一般の觀察上大なる顧慮を要せさるへしと雖全然之れを放棄して全く顧慮せさるは不可なり旅團にして前面の敵を攻撃するに決せは一意前面の敵に對して又他に顧慮なきを必要とす苟も顧慮を有せんか風聲鶴唳の不利を來すことなしとせす之れか爲めには地形と全兵力とを顧慮し旅團をして左側背を顧慮することなきに足るの兵力を派遣するを必要とす

六　東海道方面に使用する助攻部隊の兵力過大なるもの多し助攻部隊は成可く少なくして主力方面に使用する兵力を出來得る限り大ならしむるを以て用兵の原則とす

七　衛生隊を右岸に開設するは其使用當を得す蓋し戰線を距る遠きに失するのみならす完全なる負傷者運搬路は僅に一の上石田橋梁に依らさるへからさるの不利あれはなり

本問題に就き研究すへき主要なる事項左の如し

一　砲兵陣地

二　攻撃方面

三　攻撃準備の爲め展開地

一　砲兵陣地に就て

野戰砲兵は他兵種殊に步兵と協同して戰鬪の目的を達成すへきものとす此目的を達成せんか爲め野戰砲兵は終始戰鬪の全局を考慮し其動作を律し戰鬪の骨幹を形成して他兵種に行動の自由を與へ戰局の進捗を容易ならしむるを以て主眼とせさるへからす

野戰砲兵の本領は輕捷なる運動と威力強大なる射撃とを以て戰鬪を實行するにあり而して陣地目標の撰擇當を得て射撃精巧なるときは敵を壓倒震駭し友軍の志氣を鼓舞作興して遂に全軍戰捷の途





するは攻撃部署の要訣なり此際一部の兵力を以て敵線の他部に向はしめ主力の攻撃進捗を容易ならしむることと肝要なり

を開くに至るものとす

砲火の緩急は一に戰況に依らさるへからす而して好時機毎に至短時間の迅速正確なる射撃を以て敵を制壓するを緊要とす蓋し火器進歩の結果其威力猛烈となり之か爲戰場内に永く好目標を認むること能はす假令之を認むるも直に其影を没するか或は損害減少の手段を講するに至るを以てなり而して射撃の目的を達せは再ひ沈默に復するを要す然らされは徒に彈藥を浪費するに過きさるへし

砲兵は勉めて敵の有効射撃界外に動作するを可とすと雖其主要なる任務は地形及時機の如何に關せす適切に歩兵を援助するにあるを以て常に之と密接の關係を保つを要す殊に決勝の時機若は特殊の目的の爲には最も猛烈なる敵の歩兵火も之を忌避することなく敵に近接し砲兵の最大威力を發揚し以て我か歩兵に有形無形の至大なる援助を與へさるへからす

砲兵陣地は常に戰鬪の目的及狀況に適合し且同一陣地より戰鬪の經過に伴ひ諸般の任務を達成し得ること必要なり而して之か撰擇を爲すに方りては火砲をして最大威力を發揚せしむるを以て主眼とすへし

尙ほ陣地撰定に關し左の緒件を顧慮するを要す

射界廣濶、展望自在

地幅廣く砲車位置平坦にして放列線は成るへく主要なる射線に直交し其進退は容易にして敵眼に遮蔽し得ること

遮蔽陣地にありては殊に適當なる觀測所を有し且成るへく近く前地を射撃し得るを要す

以上の如く砲兵に關する原則を研究する時は旅團の爲め砲兵陣地を撰定するに當りては自ら其利害得失を判別するに難からさるへし即

ち小林北方の高地に撰定する時は距離は稍々遠きに失し時機に應し適當に砲火は威力を發揚すること能はす我歩兵の戰鬪と協同すること と困難にして且つ中間に黄瀬川の障碍等あり決勝の時機等に於て適切に砲兵の威力を現はすこと不可能なるを以て決して適當なる陣地と爲すに足らす

竹原東端の陣地は歩兵と協同して戰鬪すること敵陣地及ひ我歩兵線との距離近きとの故を以て小林北方高地に於ける陣地の如き不利を避くるを得へしと雖常に終始我歩兵の頭上を越へて射撃せさるへからさるの不便あり從て我歩兵線の一度近く敵線に接するに至り戰勝に至大の關係を有するの時機に當り顧慮なく其砲兵獨特の威力を發揚する能はさるの不利あるを免れす

右二陣地に比し天神原南方無名祠北方の畑地に陣地を占領するときは以上諸害を除去し充分其目的を達成するを得へし而して稍孤立しあるの害あるか如きも東海道方面の助攻部隊は能く我砲兵陣地を掩護し得へきを信す

夜間の陣地占領は過誤を來し混雜を招き易し故に爲し得る限り晝間豫め周到なる注意を以て偵察を行ひ諸準備を整ふるを要す之れか爲中隊にありては行進路、放列線、主要なる射線、各砲車の位置、工事の經始、及段列の位置等を標示するを要す此際爲し得れは必要なる幹部を隨ふるを可とす而して晝間斥候を陣地の正面及側面に派遣し第一線及砲兵の兩翼にある部隊と豫め確實に連絡しあるを必要とすることあり

凡て夜間の動作は靜肅を維持すること緊要なり敵に近くに從ひ殊に然り又陣地進入に方りては成る可く平坦にして運動容易なる道路を選むを要す之れ地形は戰術上晝間と大に其趣きを異にすれはなり

## 二　攻撃方面に關し

所謂攻撃點とは攻撃の爲兵力の重點の向ふ方面を謂ふ而して之を決定せんには戰略及戰術上の利害を討究するを要す而して此兩者適恰し戰略上の重要と認めたる方面に向ひ戰術上亦容易に攻撃し得る場合は固より可なるも之に反し兩者の利害相反することあり然るときは戰術上の顧慮に重きを置き最容易に攻撃し得へき地點に向ふものとす是れ戰鬪は先つ敵に勝つを以て第一の要件となし敵の敗退を一層大ならしめんとするか如き顧慮は之を第二位に置かさるへからされはなり

戰術上攻撃點は狀況特に地形を判斷し陣地の弱點若は敵の爲最も危險なる方向に選ふへし其要件種々ありと雖要するに地形上より研究すれは攻撃點は敵陣地及我攻撃地域を考慮し通常比較的蔭蔽近接し優勢の火力を發展し得へき地點に選定するを最も良とす

攻撃の爲兵力の部署要訣は攻撃點に向ひ優勢なる兵力を以て攻撃し一部を以て敵線の他部に向はしめ以て主力の攻撃進捗を容易ならしむるを要す

攻撃點以外に用ひられたる部隊は其方面に多くの敵兵を牽制し主力方面に對する敵兵を少からしめ或は敵をして我攻撃點を誤認せしめ或は敵に痛痒を感せしむる等に依りて其目的を達し得へし之れか爲其戰鬪動作は全く一般攻撃の要領と異ることなし而して其攻撃開始時機は主力方面攻撃開始前或は遲くも之と同時に開始せらるゝを常とす

以上の研究に基き本日の攻撃方面を決定する時は自ら北部下土狩方面たるに至るへし之に反し竹原方面より又は南部下狩方面より又は其南方無名祠附近に向て攻撃せんとするものは決して適切なる攻撃點撰定と爲し難し

北部下主狩方面より主力を使用する時は他の方面に比し蔭蔽して敵に接近するを得へく又其向ふ所は敵陣地の右翼附近たるを判斷し得へく而も此地點は稍陣地の凸出部を成形しあるを以て我火力集中し得へく即ち敵を包圍し得るの利あり其他該凸出部附近は敵陣地の重要なる地點にして而も地形上弱點たるを失はす且つ一般の地形は漸次南に低きを以て成る可く北方より攻撃するときは敵を瞰制するの利益あり(附圖第一參照)

三　攻撃準備陣地に關し

他を倒さんと欲する者は自ら確立せさるへからす攻撃は防禦と同一の方法に於て土地の支撐を要す攻者は突撃を爲さんとするや先つ敵陣地の前方に堅固なる據點を占領せさるへからす敵の有する陣地の有利なるに從ひ此原則は益々其價値を發揮す

故に攻撃計畫決定せは指揮官は所要の命令を下し軍隊を攻撃準備の位置に就かしむるを要す是各隊先攻撃の準備を整へ次に順序正しく統一的攻撃を實施せんか爲なり所謂自ら先確立するものなり而して此位置は成る可く敵に近接すへしと雖敵火蛟に敵眼に遮蔽し豫期せさる戰鬪を避け得る程度に於て選定するを要す

攻撃準備の位置に就かんか爲めには各部隊は各自警戒兵を出すを必要とす又運動中は穩密迅速相互の連繫を確保し常に直に敵の出撃に應し得さるへからす

防禦陣地を占領せる敵に對する攻撃に於て兵力指導の要領は特に攻撃準備の位置に軍隊を配置する迄の動作に於て注意すへきものとす爾後の攻撃動作に至りては一般攻撃動作と同しくして

他日の研究に讓る

以上は主として晝間に關し研究したるものなり我砲兵の効力十分ならす且晝間力行を要せさるとき又は一般の狀況上攻撃開始を急

かさるときは夜暗を利用して敵に接近し翌拂曉より攻撃を開始するを有利とすること多し該戰鬪法を以て通常拂曉攻撃と稱す此際夜間占領すへき攻撃準備の位置は成るへく敵に近接し天明後我前進すへき地域を僅少ならしむるを要す然れとも有爲なる敵は我夜間の運動に際し防害を爲すへき手段を講するを以て妄りに近接し不利の戰鬪を惹き起し夜暗の擾亂を釀し以て全計畫に齟齬を來すことなきか如く注意せさるへからす

即ち本日の準備陣地は南部下土狩東端に沿ふて北部下土狩の中央部附近に亘り占領するを可とす之れより後方に於て占領するは固より不可にして爰に論するの價値なく又前方に於て占領する時は即ち豫期せさる戰鬪惹起の恐れあるのみならす又終に夜暗の擾亂を釀し以て全計畫をして水泡に歸せしむることなきを保せす況んや拂曉稍前漸次展望を得るに當り互に連繫して一躍又は二躍敵に接近し得るを以て既に前記の陣地に展開し得るに於ては之れより以後は夜間混雜中に尙ほ敵に接近することに苦慮を要せさるなり

狀況

以上の如く研究計畫し將に之れか實行に關する命令を下さんとするに方り本軍指揮官より左の訓令に接す

西軍訓令の要旨

一　貴官の報告に依り歩兵第二聯隊長の指揮する歩兵二個大隊及山砲兵一中隊騎兵一小隊を十里木街道を御殿場に向て前進せしめ足柄街道の守備を命せり

右支隊は遲くも明日午前四時頃迄には御殿場附近に達するならん

二　其旅團は一意當面の敵を擊攘し以て箱根街道の守備を確實ならしむるを要す

旅團長は右訓令に基き足柄街道方面に派遣すへき二個中隊を中止し附圖第一の如く攻撃計畫を確定す

右攻撃計畫實施に要する旅團命令の研究

混成旅團命令　一月十四日午後十時上石田ニ於テ

一　當面の敵は三島町西北端△39.2附近より其西南無名祠附近を經て東海道に亘り陣地を占領し其砲兵陣地は△39.2及本覺寺西方附近にあるもの、如く又一部の歩兵は今尚ほ下土狩を占領しあり又足柄街道方面には本日午後四時頃微弱なる敵兵御殿場に到着宿營せり後續部隊あるか如きも未た詳ならす

二　旅團は明拂曉前面の敵を攻撃せんとす

歩兵第二聯隊長某大佐の指揮する歩兵二大隊を基幹とせる一支隊は足柄街道方面の敵に對し十里木街道を前進し明十五日午前四時頃迄には御殿場附近に達する筈なり

三　歩兵第三聯隊長は同聯隊第二大隊第三大隊及歩兵第四聯隊の二中隊を指揮し明拂曉迄に下土狩南端鐵道線路附近を右翼とし下土狩の東端に沿ふて北部下土狩道路の屈曲點附近に亘り豫想する敵の右翼を攻撃し得る如く展開すへし

但し上石田橋梁は明十五日午前四時以前に通過し終るを要す

四　歩兵第三聯隊第一大隊は明日午前五時迄に主力を以て東海道北方地區に沿ふて攻撃し得る如く伏見附近に展開し攻撃の準備を爲すへし

五　野砲兵大隊は歩兵隊の上石田橋梁通過後宿營地出發主として△39.2附近を射撃し得る如く明拂曉迄に天神原南方無名祠北方畑地附近に陣地を占領すへし

六　騎兵中隊は一部を以て東海道方面を警戒し主力は足柄方面に

在りて旅團の左側背を掩護すへし

七　工兵中隊は砲兵隊長指揮の下に陣地進入を援助し後本宿北方畑地にありて後命を待つへし

八　歩兵第四聯隊第一大隊（一中隊欠）は旅團の豫備とす歩兵第三聯隊の展開後は各現在地附近に集合して出發の準備を爲しあるへし

九　衛生隊は砲兵の本宿通過後本宿に至り同村北端附近に開設すへし

十　予は明日午前三時より下土狩東方鐵道踏切附近にあり

各隊より將校一名を同時迄に同處に派遣し置くへし

**注意一**　多くの命令を見るに妥りに單簡を希望し爲めに必要なる諸件を消除したるものあり之れ命令の要旨に合せす要務令の所謂單簡とは必要なる件を消除するの意にあらすして文章を單簡にして且つ不必要なる件を消除し明瞭ならしめんとするにあるなり故に必要なる事項は如何に命令文を長くするも決して消除すへきものにあらさるなり

二　該命令の第一項に敵線を示すに敵の右翼より記載しあり要務令の規定に相違す然れとも敵を左翼より示さんとするも左翼全く不明にして指示に不便なるを以て便宜右翼より示したるに過きさるなり

三　大行李は既に宿營命令中に炊爨終り次第沼津に宿營を命したるを以て今特に爰に命するの必要なく更に別命を待たしむるを以て可なるを以て該命令中に記せす

四　第二項中に旅團は明拂曉……と記せり別に旅團は主力を以て……と記載するの意見あるか如きも旅團の目的を

示すに一部の方面主力方面を記するは各個命令には極めて必要なるも合同命令には特に記するの必要なし又右意見の如く細く記するも敢て支障なきを以て各人の隨意とす(命令には別に樣式なし)

今より左に砲兵戰鬪に關し其概要を研究せんとす

砲兵陣地進入に關し

一　砲兵大隊長は中隊長及ひ所要の人員を伴ひ晝間既に撰定し置きたる天神原南方無名祠北方畑地の豫定砲兵陣地に至り兩中隊長に各占領すへき陣地及目標の方向放列線を指示す

二　兩中隊長は各配當せられたる陣地の細部偵察を爲し且つ進入に際し混雜を避け靜肅迅速に陣地進入を爲し得る爲め所要の處置を爲す

三　中隊長は中隊の位置に歸り中隊を引率して陣地進入を爲す遮



蔽に對し必要の工事を施す

陣地に暴露陣地遮蔽陣地半(略)遮蔽陣地ありて各々利害あり

暴露陣地は直接に照準を爲し得るを以て適當の時機に適當の目標に對し適切なる射擊を爲すを得るも敵に暴露するを以て從て自己の損害大なり遮蔽陣地は自己の損害を減少するを得るの利ありと雖間接照準なるを以て暴露陣地に比して適當なる時機に適當な射擊を爲し能はさるの不利あり故に暴露陣地は主として遊動目標に對する時遮蔽陣地は主として固定したる目標に對し撰定せらるゝを通常とす而して略(半)遮蔽陣地は照準は殆と直接照準に準し遮蔽の度は兩陣地の中間にして即ち該陣地は以上兩陣地の有する各利害を有するものとす而して其何れを採用すへきやは狀況地形に關するものにして圖上に於ては之れを研究し能さるを遺憾とす

砲兵操典第一部第二百二十七　夜間の陣地占領に方りては通常晝間行ひ豫め偵察を行ひ進路放列線、主要なる射線、各砲車の位置、工事の段列等を標示するを要す此際爲し得れは必要なる幹部を隨ふるを可とす

## 戰況

砲兵大隊は豫定の如く陣地を占領し得る時に午前五時未た四面暗黑東海道方面並に南部下土狩東方及北部下土狩附近に當りて時々銃聲を聞く間もなく下土狩方面に方りて遽に激烈なる銃聲を聞き續ひて突貫の聲盛なり北部下土狩占領部隊の戰鬪ならん該戰鬪は暫時にして靜止し北部下土狩東方に當りて繼續せる銃聲を聞くの み時は次第に經過し四面漸く白く午前六時遙に本覺寺西南方無名祠の森林を霞中に望見し得る

砲兵隊長は何にか處置あるや

望見し得たる無名祠森林（豫想したる敵の第二砲兵陣地）に向て射撃を開始せんとするは早計に失す蓋し射撃開始は高級指揮官の命令に基くを原則とするのみならす該森林附近は果して敵の砲兵陣地なるや確實に判知し得されはなり

砲兵操典條二部第五十七各部隊攻撃準備の位置に就きたる後砲兵は高級指揮官の命令に依り射撃を開始す

……同右第二十九射撃は必す確認する目標若は信すへき徴候に依りて敵の位置と判定したる地域に對して行ふものとす

砲兵操典第一部第三百九、第四項同一の目標に對し數中隊同時に

午前六時稍〻過き旅團長より先に下土狩占領部隊の下土狩を占領したること及ひ適時射撃を開始すへき通報及命令を受領す

午前六時二十分頃稍明瞭に敵陣地を展望することを得且つ觀測斥候の報告に依り敵の砲兵陣地は $\triangle^{2}_{39}$ 附近にあるを確知せり

砲兵隊長の處置如何

直ちに射撃を開始せしむるは可なり然れとも兩中隊を以て試射を行はしむるや或は一中隊を以て試射せしめ他中隊をして他の目的に使用するや否やを判然命令せさるへからす

砲兵大隊長は右翼中隊をして敵の砲兵陣地に對し試射せしめ左翼中隊をして主攻撃方面の敵の歩兵線に向て試射を行はしむ

忽ち砲戰の第一發は我砲兵陣地右翼中隊第一砲兵に開かる續ひて第二第三彈は豫想する敵の砲兵陣地の前後に落下し盛に土煙を昇く敵の砲兵陣地も亦た盛に應射し彼我の砲戰は漸次盛なり

試射するは各中隊其射彈を確實に區別して觀測し得るときに限し若し得ざるときは單に一中隊をして試射を行はしめ其他の中隊をして一時射撃を爲さしめ又は從來の必要を豫期する點に向て射撃の修正を行はしめ置くを可とす

砲兵操典第二部第四十三項

我歩兵既に敵の小銃有效射撃界に近接するや砲兵は漸次其火力を敵の歩兵に轉し以て歩兵の攻撃前進を容易ならしむへし

砲兵操典、歩兵の突撃を準備する爲若干中隊をして最も有效の距離に進出せしむるを緊要とすること多し斯の如くすれは砲兵は縦ひ犧牲となるも攻撃中隊の支撐となり著しく其志氣を發揚し其利は已の損害を償ふて餘りあり

機關銃を配置し若は掩獲物に據る敵に對し我か歩兵の攻撃を進捗せ

當時我主力方面歩兵線は敵の歩兵線を距る約六七百米にありて戰鬪漸く盛なり之れより先東海道方面の我歩兵は主力歩兵に先ち戰鬪を開始し戰鬪今や正に酣ならんとす

午前七時頃我歩兵は一進一止漸く敵線を去る五六百米に至るも敵の歩兵火は益々熾盛を極め死傷續出容易に前進すること能はす彼我機關銃の慘烈なる音響は銃聲と混し戰場極めて悲慘たり

砲兵は我歩兵主力の前進を容易ならしむへき目的を以て左翼中隊を以て敵の歩兵線に向て猛射す

之れより戰鬪は益々猛烈を極め午前八時に至る我歩兵は砲兵の援助に依り漸く前進するを得たるも戰鬪未た意の如くならす敵線を去る約二三百米に至り死傷累々如何ともする能はす此に於て砲兵大隊長は斷然左翼砲兵中隊をして彈雨を犯して我歩兵右翼後に向て前進せしむ

之れより先我砲兵は既に全力を以て敵の歩兵を猛射し今や我隨伴砲兵は再ひ猛烈なる火力を最近距離に於て發揚し我歩兵の志氣漸く輓回せられ戰鬪は再ひ猛烈となる午前九時頃敵兵漸く動搖の狀あり間もなく東海道方面に喚聲を聞き次ひて全線に亘り喚聲起る大勢既に輓回すへからす敵は終に多くの死傷を遺棄しして三島東方山地に向て敗走す我歩兵は續ひて追撃し砲兵は一部は東海道方面に一部は三島町北方地區に進出して追撃を爲さんとす

以上は僅に砲兵戰鬪の一般を研究せしのみ以下主力方面歩兵の戰鬪に就て研究せんとす

歩兵第三聯隊長は如何にして展開するや展開に關する順序方法

展開に先ち歩兵二大隊を本宿北端畑地に開進せしめんとす聯隊長あり一旦開進せしめんするは可なり然れとも該開進地に關して少しく顧慮せさるへからす歩兵操典に要求しある如き開進地を撰定

しめんか爲には機を失することなく若干門の砲車を散兵壕線附近に進ましめ以て其猛烈なる火力に依りて之を壓倒し我歩兵を推進するを要す

するは勿論特に本日の開進地は開進地より展開するに當りて出來得る限り至便且つ容易にして夜暗の混雑を豫防せさるへからす之れか爲めには本宿北端畑地に開進しある時は展開するに方りて更に再ひ長距離を而も展開正面以外の方面に向て行進し更に展開せさるへからす又夜間の展開は往々其正面豫定の如くならす天明に至りて始めて其正面の誤れるを知り戰機を失すること決して鮮とせさるなり凡て展開は行進方向に於てするを最も容易且便とするは明瞭なり夜間に於て殊に然り故に本日の開進地は又大に爰に着意し撰定せさるへからす

歩兵第三聯隊長は旅團命令に基き先左の要旨の命令を下す

一　前面の敵は變化なく一部の歩兵は今尚ほ北部下土狩を占領しあり

足柄街道方面には本軍より別に一支隊を派遣せられ該支隊は十里木街道を前進し明十五日午前四時頃迄には御殿場に達するならん

二　旅團は明十五日拂曉歩兵第三聯隊の第一大隊を以て東海道方面より砲兵大隊をして天神原南方約四百米の無名祠北方畑地に陣地を占領せしめ主力を以て豫想する敵の右翼に向て攻撃せんとす

三　歩兵第三聯隊（第一大隊欠）は建制順序を以て午前三時上石田橋梁を出發鐵道線路を行進し鮎壺南端畑地に集合すへし

但し乘馬及小行李は本宿より鮎壺に至る道路を行進せしむへし

四　南部下土狩及鮎壺にある歩兵第四聯隊の兩中隊は現在地に於て後命を待つへし

聯隊は豫定の如く集合開進を終るや聯隊長は兩大隊長及歩兵第四

聯隊の兩中隊長を集めて展開に關し左の要旨の命令を與ふ

但し南部下土狩にある中隊長は狀況上爲し得れは之れを召集す

命令の要旨

一　聯隊は拂曉より本覺寺西南約四百米突無名祠附近より △39,2 を經て其北方に亘る敵に向て攻撃せんとす

二　第二大隊長は部下二中隊及び歩兵第四聯隊の二中隊を指揮し三島驛より三島町に通する新道以南の地區より攻撃し得る如く下土狩東端に展開し第三大隊の攻撃と連繫して攻撃すへし

三　第三大隊は先つ北部下土狩の敵を驅逐し三島驛より三島町に通する新道以北の地區より攻撃し得る如く展開し攻撃の準備を爲すへし

四　歩兵第二大隊の二中隊及機關銃隊（一銃欠）は聯隊の豫備とし鮎壺下土狩鬪道路集合點に位置すへし

歩兵操典第一部第百九十九聯隊長は各大隊に其分擔すへき任務を命すると之か爲攻撃に在りては通常各大隊に聯隊の攻撃目標及大隊の戰鬪地域を示し又大隊時として毎に攻撃目標を與ふることあり防禦に在りては大隊の占領區域を指定するを常とす

五　衛生隊は本宿に開設せらるゝ筈なり

六　予は暫く現在地にあり攻撃開始に當り豫備隊と共に第二大隊の後方を前進す

右翼大隊第二大隊の展開如何

二中隊を第一線と爲すものと三中隊を第一線とし一中隊を大隊の豫備と爲さんとするものとあり兩案共に各一理あり然れとも此際三中隊を第一線と爲すを可とす何となれは聯隊内にある大隊の豫備は其目的第一線を補充し以て火力の維持を努むるにあり而して拂曉攻撃の目的は成る可く敵に近接して展開するにあり本日の狀況に於ても亦た然り成る可く近く敵に接近して展開するは始めより火力の優勢を占むるを以て主眼とす而も近距離に展開し近距離より戰鬪を開始するを以て第一線の補充は比較的其必要少なきものと言はさるへからす要するに始めより火力の優勢を占めんとす

るか爲には第一線には出來得る限り多くの兵力を展開せさるへからす而して比較的第一線の補充の必要少なきは第一線の兵力を大ならしむるを得へし然れとも例ひ近距離より戰鬪を開始するも尙ほ戰鬪の狀況に從ひ第一線の補充は固より必要なり之れか爲めには若干の豫備を必要とす以上の理由に依り此際第三中隊を第一線とし一中隊を豫備とするを至當とす

戰　況

第三大隊は下土狩の敵を驅逐し第二第三大隊は所命の如く展開を終る時に午前五時頃なり當時旅團長は旅團の豫備を以て聯隊の左翼後にあるを知る

午前六時稍前天漸く明く左右前後約二三百米を望見し得るに至る此に於て此機を利用し混亂を避け連繫を保持して第二第三大隊は一躍進して二三百米前進し爰に拂曉を持て一擧敵を擊滅せんとす

午前六時二十分頃我豫定の砲兵陣地より射擊を開始し爰に戰鬪の端緒は開かる當時敵の陣地は我散兵線より充分展望することを得豫想する敵の歩兵線よりは一齊に我散兵線に向て射擊を開始す

我散兵又之れに應す

是れより先東海道方面に於ては戰鬪既に盛なり

午前七時頃我散兵は一進一止敵を去る約五六百米突に至る敵の火力熾盛加ふるに機關銃の火力は猛烈にして我散兵の前進困難なり

午前七時三十分頃第二大隊は援隊豫備隊等を第一線に增加し第三大隊も亦た極力前進を計り漸く敵を去四五百米に至る當時小松宮別邸北方約三四百米の森林北方附近を優勢なる敵兵東方に向て移動しつゝあるを見る第二大隊の左翼中隊長は何にか處置あるや左翼中隊は新に發見したる敵に向て射擊目標を變換せんとするは不可なり宜く一意當面の敵に向て攻擊を繼續せさるへからす蓋し

我左翼後には旅團の豫備あり又我左翼には第三大隊あり又聯隊の豫備あれはなり

當時第二大隊長は戰死し古參中隊長たる第五中隊長代理大隊長たり又各隊共に幹部の多くは或は戰死し或は負傷し戰場極めて悲慘たり

午前八時頃僅に存在する各幹部は號令叱咤卒先して前進を繼續し漸く二三百米の線に達する時に北方に方りて激烈なる銃聲起り戰鬪の勝敗未た遽に判斷し能はさるに至る當時我散兵線には砲兵の曳火彈は絶へす破烈し死傷續出戰鬪の進捗意の如くならす

忽ち我第二大隊の右翼側後に方りて激烈なる砲聲を聞く之れ我隨伴砲兵の正に到着して我散兵の前進を援助するにあるなり散兵線の志氣爲めに大に振ひ戰鬪は更に再ひ猛烈となる午前九時頃敵兵稍々動搖の色あり忽ち東海道方面に方りて喚聲を聞く主力方面の歩兵は一齊に起ち敵の陣地に向て突進す大勢終に輓回すへからす敵は多數の死傷者を遺棄して終に東方に敗退す全線追擊に移り三島東端に向て前進す

該想定に關する主なる研究事項左の如し

一　任務の他に主として地形上決心の確定

二　決心に伴ふ處置（敵陣地前に於ける大障碍を顧慮し）

三　不意に敵の現出に對する警戒部隊各幹部の決心處置

四　時間の關係上決心に伴ふ處置の變更

五　敵情の變化に伴ふ決心

六　夜間戰鬪に關し

七　狀況の變化に從ひ決心の變更

八　拂曉攻擊に關する兵力部署

九　右攻擊に關する旅團長聯隊長の命令

十　夜間に於ける展開法

十一　夜間砲兵の陣地進入、拂曉攻撃開始より終に隨伴砲兵に至る迄砲兵戰闘の概要

十二　歩兵聯隊の展開拂曉攻撃開始より突撃に至る迄の歩兵戰闘一般の概要



## 第二想定

一　東海道を東進する敵を沼津以西に撃攘すへき任務を有し三月十九日早朝箱根を出發したる東軍支隊は午前十時其前衛本隊の先頭を以て新宿三叉路に達す當時支隊長は前衛本隊の先頭にあり此時迄に支隊長の知り得たる情報左の如し

1　昨夜今泉村附近に宿營したる諸兵連合の敵は其兵力畧我と同等にして今早朝出發前進せり

2　本日午前八時頃敵の歩兵部隊原一本松間を通過せるもの〻如し

3　我騎兵中隊は本朝來黄瀬川附近に於て稍劣勢なる敵騎と衝突し目下一部を以て我騎兵支援隊と共に下石田附近を確實に占領し主力を以て上石田に轉進せり

二　支隊の編組

支隊長　某小將

歩兵第二聯隊（機關銃一隊）

歩兵第三聯隊第一大隊

騎兵第十四聯隊第二中隊

野砲兵第十八聯隊の第二大隊（第六中隊欠）

衛生半部

軍隊區分の研究

一　砲兵の一部を前衛に附するものと然らさるものとあり支隊は任務上且つ得たる情報より判斷して敵と遭遇を豫期す既に遭遇を豫期す宜しく砲兵の一部を前衛に附するを至當とす然れとも如何に遭遇を豫期すると雖も砲兵の全部を前衛に附するは不可なり蓋し現支隊に於ける二中隊の砲兵は能く戰場を支配するを得る而も之れを前衛司令官の指揮に委するに於ては支隊長は或は戰場を支配するの能力を欠くことなしとせされはなり

二　右側衛として一大隊又は大隊長の指揮する二中隊を區分せんとするものあり共に大なる差異なし然れとも地形の關係は警戒上多くの兵力を要せす又全兵力の關係上一大隊を出すは稍々其兵力大に失するの感なき能はす大隊長の指揮する二中隊を以て適當とす而して一の右側衛を出さゝるは地形の研究未た足らさるの結果と言はさるを得す

當時支隊の軍隊區分左の如し

前衛（歩兵第二聯隊長の指揮する歩兵一大隊
騎兵中隊（一分隊欠）
野砲兵一中隊
工兵一中隊（一小隊欠）

右側衛 歩兵第三聯隊第一大隊長の指揮する歩兵二中隊
傳騎 若干

本隊殘餘の諸隊

午前十時に於ける支隊長の決心

支隊は前衛を以て速に下石田を占領せしめ主力は上石田方面より高田に向て前進せんとす

黄瀬川は支隊の任務遂行上一大障碍たり決心の確定上顧慮を要する重要事項の一なり然れとも我一部は既に下石田を占領せり從て前衛は敵に先んして之を占領し得るの公算あり好機は去り易く再ひ求むるも得へからす此機に乘して速に黄瀬川を渡河するを要す然れとも渡河すや直に戰鬪開始を豫期せさるへからす從て戰鬪上主力の渡河點は適當に之を選定するの必要あり之か爲には上石田方面よりするを地形上極めて有利とす而も進出の時間に差異なけれはなり徒に黄瀬川左岸に止まりて自ら防勢に陷らんとするものあるは遺憾なり此際速かに黄瀬川を渡河して一意敵を攻撃して任務の遂行に努力せさるへからす

處置

1 前衛を以て下石田を占領

2 右側衛は上石田附近を占領して本隊の渡河を掩護しむ

3 本隊は上石田に轉進

但し砲兵大隊長に本隊の砲兵を率ひて前衛及本隊の展開を顧慮して陣地を占領せしむ(研究の關係上位置を明示せす)又前衛砲兵は砲兵大隊に復歸せしむ

此際右側衛を小林に向ひ前進せしむるの案は遺憾なから同意することを能はす本日の右側衛は前衛と齊頭又は其前方にありて行進するものなるを以て之か掩護の許に(新前衛として)本隊は速に渡河

を完了せさるへからす然るに全く本隊の正面を開放するは不合理の甚しきものにして若し本隊にして警戒の要なく容易に渡河し得んか何を苦んで更に敵の存在せさる小林方向に右側衛を出すの要あらんや

又本隊をして鐵道橋を通過せしむるの案は全く行李馬匹等を顧慮せさるものとす考は常に實際的なるを要す苟も小行李を有する部隊は鐵道橋の如きものは決して利用すへからさるものと覺悟して一般の計畫を爲すを要す

前衛の兵力を分割して大部を上石田に向ひ前進せしめたるの案も亦不同意なり是れ敵と遭遇を豫期する部隊は前衛の動作に依頼すること多大なるものとす然るた此重要なる兵力を割くは即ち主力を上石田方面に轉進せしむるの主旨に合せす

蓋し前衛の極力下石田を占領せるに依りて始めて上石田轉進を實行し得れはなり

支隊本隊の進路の選定

三島神社西南方約百米の三叉點を右折して兩點線路を竹原本宿を經て上石田に至る

支隊本隊前進隊形

四列側面縱隊を以てすへし

單に路幅狹きの故を以て二列又は三列行進とせんとするは甚た不可なり之れ本日の時機は爲し得る限り行軍長經を短縮し速に上石田に進出せさるへからす道路は狹少なりと雖兩側は畑地なり步兵は畑地の行進は敢て大なる困難と爲すに足らす(而も本日は距離の關係上)

例へ多少の勞を來すと雖狀況は之を要求す是れ平素兵力を愛惜するは必要の時に際し必要の勞働を要求するの要あるを以てなり

部下の體力は適時に之を愛惜することに顧慮すへし蓋し必要の時機に當りては毫も愛惜することなく之を使用し過劇の勞働を要求せさるへからされはなり

然れとも四列側面以上の正面幅を有する隊形を以て前進せんとするも上石田の橋梁の爲め再ひ正面を狹少ならしめさるへからさるに至るを以て妄りに正面廣き隊形を撰定せんとするは不可なり

騎兵の主力は目下上石田の堤防を占領し將校斥候を岡一色の高地に出し敵情を捜索せしめ以て我か歩兵部隊の來着を待たんとす

騎兵隊長の處置

騎兵の主力を以て上石田の堤防を占領し將校斥候を岡一色の高地に出し敵情を捜索せしめ以て我か歩兵部隊の來着を待たんとす

此際主力を以て岡一色に轉進せんとするは不可なり之れ歩兵部隊の渡河を掩護する能はされはなり抑も捜索は必しも主力を以てするを要せす良馬を有し良望遠鏡を携へ且騎術に熟し戰術眼を有する將校斥候を以てせは十分捜索の目的を達し得へしとは要務令に明示しある所にあらすや

狀況



午前十時三十分稍過前衛司令官（舊右側衛）は前衛と共に騎兵主力の位置する地點に至る此際騎兵は該地附近に徒歩戰の準備をなし蓬蔽しあり

騎兵隊長より左の通報を受く

一　下石田附近の銃聲は騎兵の當地點に來着したる當時より目下の如く聞ゆ

二　只今將校斥候の報告に依れは（岡一色にある）敵の歩兵は逐次高田に進入し尚其後方には歩兵縱隊二、三沼津及高田方向に前進中にして各縱隊には乘馬將校を目擊す

三　騎兵は只今より主力を以て岡一色方向に前進し敵の左側背を捜索せんとす

間もなく前衛司令官は高田方向及沼津北方に於て敵の縱隊行進しつゝあるを見る

情及我軍指揮官の意圖に就て必要の諸件を知る者は捜索勤務の最も緊要の機關とす

舊前衛の方面の銃聲は益激烈となる

前衛司令官（舊右側衛）の處置

前衛は我騎兵に代り上石田附近に於て蔭蔽して陣地を占領し本隊の渡河を掩護せんとす

之れか爲め兩中隊を一は現在地南方約五十米の斷崖を左翼とし高田方面に對して一小隊を蔭蔽散開他は崖下に蔭蔽せしめ一は現在地北方約百米上石田村緣に一小隊蔭蔽散開其他は其後方に蔭蔽せしむ小隊長及中隊長は散開せる小隊附近にありて敵情を監視す

狀況

支隊長は續ひて前衛司令官の所在地に到着し騎兵の動作前衛の處置を聞き前面の敵情を觀察す敵は逐次高田方向に增加しつゝあり

支隊の主力は其先頭を以て上石田橋梁附近に達しあり

午前十時四十分騎兵中隊長より敵砲六門は新田方向より高田に向ふとの報告あり次て前衛司令官の所在地に到着し前面步兵小隊長よりの報告によれは敵砲六門



高田の南方畑地に進出せりと

情況を判斷し判斷に基く處置を略圖を以て答解すへし（附圖第二）

前面の情況は所謂半遭遇戰にして即ち敵は我に先んし展開を完了せんとしつゝあり士官學校戰術學教程に敵若し我に先んして展開を了らんとするの虞ある場合に在りては前衛は本隊の展開を掩護し得るを度として……本隊は充分なる兵力を展開し得るに至りて始めて齊一に戰鬪に加入し得る如く指揮すへきものとすとあるは即ち目下の狀況なり之れか爲め左の如く處置するを至當とす

步兵第二聯隊（是れより先聯隊長は既に前衛司令官の任務を解かれ本隊に復歸しあり）二個大隊を指揮せしめ上石田西北端を右翼とし中石田北端附近に亘る間に展開せしめ步兵第三聯隊第一大隊を總豫備とし上石田兩部落の中間道路の東側に位置せしむ豫備隊

整へ敵の包圍を豫防し且終始優勢なる敵と對戰するの不利を免れんが爲十分なる兵力を展開し得るに至るまで眞面目の戰鬪を避くるを要す

の隊形は縱隊橫隊とす但し各中隊は併列縱隊とす

豫備隊の進入路は橋梁に依るを可とす隊形を縱隊橫隊としたるものあるも進出困難なるを以て此際は大隊縱隊を側面向となしたる即ち各中隊併立縱隊の縱隊橫隊と爲したるを適當とす而して更に前方に進出する爲め豫め各中隊の進路を示し障碍を除去し方向を決し置く等適當の準備を爲しあるを要す又豫備隊を蔭蔽地内錯雜の地に混入し又は上石田北方敵前に暴露して置きたるものあり共に不可なり抑も豫備隊は必要に際し必要の方面に使用するものにして其兵力位置等を敵に察知せらるゝは最も不利なり又蔭蔽錯雜の地に置き何等の手段を施さゞれは必要の時機に當りて適當に使用すること能はす懷刀は敵を殺すか或は敵に殺さるゝ一瞬に於て始めて使用すへし始めより敵に懷刀を示すか又は其時に當りて之れを出し能はさるは共に懷刀を有する所以にあらす



第一線に付ひて

本日の狀況は半遭遇戰なり然るに戰術學教程には「總指揮官は本隊の戰鬪加入を齊一ならしむることに努力すへきものとす然れとも遭遇戰に在りては前衛の占有せる利益を確保し或は敵に先んして新企圖を遂行する爲め逐次到着する本隊の各部を戰鬪に加入せしむるを要するに至ることあり」とあり況んや半遭遇戰に於ては本隊の展開完了を待て攻擊に移らさるへからさるは勿論なり然るに多くの展開は半遭遇と遭遇戰と相混の感あり

畧圖の作爲方に關し

指揮の系統を明にすへし然らされは豫備隊の如き又は第一線の如き旅團長の直轄にあるや又は聯隊長の指揮下にあるや或は大隊長の指揮たるや頗る不明にして軍隊部署の要旨を知るに苦む軍隊配備上指揮の系統は極めて緊要なり

展開法に就ひて

諸隊の展開は到着順序に從ひ左右に逐次展開せしむへし支隊長は現在地に在りて命令受領者に直ちに其意圖を傳達するを要す

本日の展開は半遭遇にありと雖準備したる陣地の攻撃に於ける展開とは其趣を異にす後者にありては各隊共に豫定の展開を終り準備完了したる後初めて攻撃前進に移らさるへからす防禦の姿勢にある敵に對しては攻者は豫め之か計畫を定むるを要す即ち十分に敵情地形を偵察し以て攻撃の時期方向及方法を撰擇すること必要なり之か爲め軍隊は前衛の掩護に依り指揮官の意圖に從ひ開進するものとす

前者にありては豫備隊の如き未た開進を終らさるも第一線部隊にして既に署は展開を終らは即ち齊一に戰鬪に加入し得へきを以て直に眞面目の戰鬪を開始し得へし之れ實に遭遇戰半遭遇戰及準備したる陣地の攻撃に差異ある所以なり

第二大隊は三中隊を第一線に一中隊を豫備とし第三大隊は二中隊を第一線とし一中隊を左翼後に豫備とす

聯隊長は第三大隊の一中隊を以て聯隊豫備とし第二第三大隊の中央後にあり

狀況

敵は高田を中心として南北に亘り漸次增加す

下石田方面は銃聲益激烈に敵の砲兵は我砲兵に向て猛射し尙ほ敵の歩兵部隊は續々下石田方面に向ひ前進するを見る彼我の銃聲極めて激烈思ふに前衛は苦戰中なるもの、如し

日下主力方面は前衛は既に展開しあるも本隊は今や展開しつゝあるの狀況なり

支隊長の處置

舊前衛の危急を救はんか爲め當初の計畫を放棄し直に到着したる部隊毎に逐次戰鬪に加入せしめて直ちに前面の敵を攻撃せんとするものあるは甚だ遺憾なり蓋し支隊長は支隊の任務の爲め戰鬪するものにして前衛の爲に戰鬪するものにあらす故に眼前の狀況に眩惑せられて最初の決心を飜すか如きことあるへからす素と前衛を斯の如き稍遠距離に派遣したる所以のものは一般の狀況上已むを得さる處置にして其孤立して苦戰に陷るは已に覺悟しあらさるへからす然も大隊は苟も戰術單位なり地形は又能く此大隊の爲め戰鬪を繼續するを許す敵は稍優勢なりと雖少くも二三時間の戰鬪に堪ゆることなからんや

狀況

我支隊は第一線部隊殆と全部展開し終りたるを以て支隊長は第二聯隊長に攻撃前進を命す時に午前十一時稍前なり(附圖第二參照)

最右翼中隊長、中央中隊長(第二大隊)の處置

二小隊を散開せしめ一小隊を援隊として前進

中隊の散開正面を常に百五十米と決定し之に拘泥するは不可なり遭遇戰か半遭遇戰か防禦したる敵に對するか孤立するか連繫するか又は始めて散開する時其他敵との距離及地形等により適宜決定せさるへからす今日の場合は前面に遮蔽を受くへき地物なきか如きも其間又實際波狀を爲しあり散兵の運動動作等一々全く敵の爲め目視せらるへきものにあらす又敵との距離も七八百米にして殊に成るへく始めより優勢の兵力を以て敵に當るの要あるのみならす前進後直ちに猛烈なる射撃を開始する必要あり故に始めより中隊の混交するの不利あるも地區之を許せは最初より三小隊即ち全部散開するを要す(兩翼は然らす)

中石田附近に於ける砲兵陣地偵察略圖

歩兵操典第二部第二十戦闘を實行するに方り所要に充たさる兵力を逐次に戦線に増加するは大なる過失にして此の如く屬するときは終に軍隊の志氣を挫折するに至るへし

砲兵陣地は中石田西南畑地附近なることは明なり之れ砲兵を長澤附近に置くは爾後追撃射撃及前進不可能なるのみならす河岸の叢林によりて蔭蔽し且つ砲兵隊長及支隊長の連絡不十分にして又歩砲兵の協同動作を爲し能はさるを以てなり

砲兵陣地進入路に就て一道にのみ依り他道も亦修理して共に之を用ひさるものあるは不可なり此際兩中隊をして兩進入路(中石田南端より西方に通する兩點線路及其北方點線路)に依らしめ右翼中隊をして先つ陣地に就かしめ次て左翼中隊をして陣地を占領せしむる各砲車は畑地斜面の後方に横隊にして放列位置に就かしめ裝塡をなして一齊に斜面を臂力前進をなすへし之れが爲め豫め器具を以て斜坂を緩ならしむるは勿論なり砲兵は速歩にして行進し來るを以て歩兵の展開に先ち到着し得へきを以て斜坂工事に要する時間は決して乏しからす



前衛大隊(舊前衛)右翼中隊の戦闘動作

大隊は三中隊を展開し右翼中隊は下石田西方丁字路附近を占領し日吉北端の敵と相對す

研究項目

1 中隊射撃に關する命令
2 小隊長の號令
3 密集部隊現出に際し小隊長の動作
4 躍進の方法
5 逐次躍進する敵に對する射撃

該想定に關する主なる研究事項左の如し

一 支隊か黄瀬川渡河に際し何れに主力を使用するを至當とするや又之か爲め採るへき道路及隊形

二 騎兵主力の動作の大要(本隊の渡河掩護並に地形の利に依り

敵の側背捜索及我右側掩護

三　主力展開方法（遭遇、半遭遇戦及準備したる陣地の攻撃の爲各差異ある點）

四　豫備隊の位置隊形及進出法

五　第一線部隊の占領法

六　第一線の某中隊の動作

七　敵の砲兵我に先して陣地にあるとき砲兵の陣地進入法

半遭遇戦に於ては前面の情況不明なるを以て逐次戦線加入の弊に陷り易し之れ不明なる敵情は思はす展開を急速ならしめんとするに至るを以てなり故に如斯狀況に於ては最も愼重の態度を以て敵に優るの兵力を展開するにあらされは攻撃實行に移らさるを要す然れとも遭遇戦に於ては拙速を尙ふ敵に先制の利を占むるを以て第一策とすへし砲兵も亦右要領に準す

## 第三　想定

一　伊豆島田附近（三宅島北方約一里）に於て敵を撃攘したる北軍混成旅團の追撃隊は下田街道を退却する敵を追躡しつゝ午前十時其前衛本隊の先頭を以て八反畠北方三叉路に達す（下田街道上）

二　追撃隊の編組

長歩兵第三聯隊長某大佐

歩兵第三聯隊（第三大隊欠）（機關銃一隊）

騎兵第一聯隊第一中隊

山砲兵第一大隊第一中隊

工兵一小隊

三　午前十時に於ける狀況左の如し

多邑の高地中島北端附近には敵の歩兵斥候らしきものあるを知る

但し漸次退却しつゝあるもの〻如し

其他見聞する處なし

注意　水田は歩兵徒渉自在にして水流は多くは徒渉極めて困難なり

午前十時に於ける追撃隊の部署略圖を以て答解

研究事項

側衛を一側若は兩側に出すや否や

前衛に砲兵を附するや否や

機關銃を如何に使用するや

右研究事項に對し左の三案あり

1　右側衛を出したるもの

2　左側衛を出したるもの

3　砲兵を前衛に附したるもの



第一の理由とする所は長泉村――平田道は退却に際し敵の採るへき主要なる道路なると該方面に敵の一部ある時は追撃隊の前進を遲滯せしむるならんと

右側衛は之を出すの必要を認めす之れ目下の情況は此方面に兵力を分つの必要なきのみならす地形開濶にして交通又比較的便なり故に此方面は騎兵をして專任せしむれは可なり然れとも騎兵の活動の爲めには途中二三の小流あるを以て或は敵の爲め其追撃を妨害せらるゝの恐ありと雖該方面は地形と退路の關係上大なる敵の退却すきへものと判斷する能はさるのみならす又既に述ふる如く交通比較的便なるを以て若し以上の如きことあらんか直に騎兵を支援すること又容易なるを以てなり

左側衛として一中隊又は一小隊を區分したるもの多し此際左側衛は極めて必要なり然れとも其兵力に付ては爰に研究を要するもの

と認むる一中隊若くは一小隊を出したるもの、理由とする所は此方面に多くの兵力を要せざると又は良好なる道路なきを以て尚ほ多くの兵を使用する能はさるとにあるか如し退却に際し後衛陣地は道路の側方に占領するを可とするを可とするは既に明なり然るに下田街道東方の地區には高地丘阜ありとするは既に明なり然るに下田街道東方の地區には高地丘阜あり且つ敵の退路の側方にして敵の一部と雖之を占領する時は追撃の爲め大なる痛痒を感す且我主力の前進する道路との中間には徒渉すへからさる水流により地區を二分されあるを以て交通甚た不便にして若し敵にして一部を以て此高地を占領せんか追撃隊の前進を遲滯せしむること大なるものと判斷せさるへからす故に此際稍有力なる一部隊を此の方面に前進せしむるを要す適當なる道路なきの故を以て兵力を小ならしむるは其理由を發見する能はす殊に該方面の土地は縱令道路なきも畑地あり畑地ならさる所の水田は徒渉自在なり戰術上に於ては狀況上必要なる兵力は(砲兵は道路に關係を有するも)道路の如何により決定すへきものにあらさるなり故に此際大隊長の指揮する二中隊を左側衛として派遣するを至當とす

砲兵の位置に關し左の三案あり

一　前衛に附したるもの

理由とする所は追撃なるを以て迅速に使用するを要するにあり

二　本隊の後尾に附したるもの

主なる理由は警戒の爲め前衛に附するの不可なると時機を誤らす使用し得へしと判斷せしにあり

三　本隊先頭中隊の次に置きたるもの

前二案の理由を混合す

狀況は前衛に附するを要求す何となれは退却を掩護すへき後衛或

は收容隊は成る可く歩兵を使用せす砲兵を以て遠距離より我を壓せんことを企圖すへし追撃隊は之に對し成る可く急追せさるへからす敵は砲兵を有し且つ第一に先つ砲撃を開始するや必せり斯くの如き敵に對し急追の任務を有する追撃隊の前衛は其兵力比較的大なるを要す殊に砲兵の効力は愈々大なるを要す彼の遭遇戰に於て僅に一中隊の砲兵を全部前衛に附するの不可なるとは全く趣きを異にす要は速に障碍(敵)を除去して急追に次くに急追を以てすへし砲兵は實に之か要求に應する唯一の武器たり

前衛の攻撃力を大ならしむる爲め機關銃の全部も亦之に附するを可とするか如きも機關銃使用の目的は砲兵使用の目的と異なり戰闘の初期に使用するに非すして決勝の時機に於て使用するを可とするのみならす若し其全部を前衛に附せんか本隊の戰闘力は前衛に比して甚しく劣勢となるのみならす全く追撃隊長の戰闘指導を困難ならしむるに至るを以て追撃隊長最後の決心に使用する爲め四銃を本隊に止め二銃を前衛に附するを可とす

以上の理由に依り追撃隊の軍隊區分を左の如く決定す

騎兵中隊を下田街道西方地區に使用す

前衛

司令官歩兵第一大隊長某少佐

歩兵第一大隊(二中隊欠)機關銃二を附す

騎兵一小隊

山砲兵一中隊

工兵一小隊

左側衛

司令官歩兵第二大隊長少佐某

歩兵第二大隊(二中隊欠)

此の中より中隊長の指揮する二小隊に工兵小隊を附して前兵とす兵は一小隊若くは半小隊にて可なり

傳騎若干

本隊

第一第二大隊の二中隊宛を各其大隊古參中隊長に引率せしむ

機關銃四銃

前衛司令官は前兵及尖兵の中間を行進す

追撃隊長は前衛本隊の先頭にあつて行進す

狀況

本隊は其先頭を以て標高17,76點西北約四百米附近を前進中轟然一發敵の砲彈飛來し我前衛と前兵の中間に落下す

該狀況を目撃したる本隊引率官の處置如何

1 縱隊の儘本道左側に移る

2 直に停止

3 處置なし

4 獨立家屋(標高17,79點西北約百米)の西北側に開進

以上の處置は概して不適當なり又前進案あるも敵の砲彈を防くの處置をなさゝるは不適當なり之れ多くは敵の砲兵陣地を顧慮せさるによる假令敵の砲兵陣地を發見する能はさるも隊長たるものは豫め一般の地形を觀察し敵の砲兵陣地を判斷し之に對するの處置に出てさるへからす殊に停止するの案に至りては全く無意味なり敵の砲撃毎に停止すれは終に前進の時なかるへし戰鬪に砲撃あるは固より奇とするに足らす況んや追撃に於て敵の砲撃に驚き停止する時は全く其任務を全ふすること能はさるへし要は損害を避けて急進の計畫を爲すを必要とす直に街道東側に移り併立縱隊を以て行進するを可とす但し各中隊の距離を短縮することなし之れ思ふに敵の砲兵陣地は大土肥東方の高地ならん然らは下田街道の東側に移るに從つて其危險を避くるを得るは地形の關係上明な

野外要務令綱領中に、指揮官の最も戒むへきもの二あり曰く爲さゝるなり遲疑するなり苟も是を爲し之を斷行すれは縱令其方法を誤るも尙ほ爲さゝると遲疑するとに愈さる蓋し此兩者の軍隊を危殆に陷るゝこと實に方法を誤るより甚しきものあれなり



り

中村北端附近を行進中なる前衛司令官の處置

直に中村南端に出て、偵察す

前衛司令官中村南端に向て出發の際に於ける處置

（處置を爲さんとする際中島方面に當り小銃の聲を聞く）

砲兵中隊長を伴ふ前衛本隊を中村北端に開進せしむ連絡斥候を左側衛方向に出す

狀況

連絡斥候出發せんとするに當り左側衛より連絡斥候到着す右報告に依り左側衛は目下夏梅木、谷田、中間の地區を行進中なることを知る

追擊隊長の處置

直に中村南端に至る

中村南端に於て敵砲彈の落下及中島の小銃戰を聞きたる尖兵長の處置

（之れより先き尖兵長は下士四名の斥候を八反畠に出す又左側衛の行進位置を知る）

尖兵長は自ら屋上に登りて前方を視察す

狀況

一斥候を中島に出さんとするや騎兵小隊は中島より退却し來りたるのみならす次て中島北端街道兩側に約一小隊の敵歩兵散開し我退却する騎兵に對し猛烈なる射擊をなし我騎兵は七八騎忽ち敵の爲めに射殺せらる

此狀況を知り尖兵長は尖兵を中村南端に散開し射擊を開始す

此際北澤に斥候を出さゝるは不可なり之れ北澤は側方より中島側背を偵察するに最も良好なる位置なるを以てなり即ち下士四名の

歩兵操典第二部第四　凡そ戰鬪に關する各級指揮官の決心は任務地形及敵情の判斷に基くものなり然れども任務は決心の基礎にして地形の不利敵情の不明等に依りて躊躇すべきものにあらす

斥候を出すを要す徒に兵力減少を顧慮して必要なる斥候を出さゝるは任務上不可なり尖兵の直後には前兵るあを忘るへからす

狀況

北澤に出たせし斥候は今や行進途中にして敵の正面は更に約一小隊を增加し街道東側に散開せしめて我騎兵を追擊す騎兵小隊は七八騎の負傷者を道路上に殘して中村の村落内に入ることを得たり而して敵の砲彈は益々中村附近に落下し其煙は多呂高地南々東の方向に見るを得たり

次て前衛司令官及追擊隊長は中村南端に來りて此狀況を目擊す

前衛司令官の決心

前衛は獨力を以て中島北端の敵を攻擊するに決す

狀況

追擊隊長は前衛司令官の決心を承認し且つ本隊の先頭に行進中なる二中隊を前衛司令官の指揮下に復せしむ（未た追及せす）

八反畠及北澤の斥候よりは未た何等の報告なし

中島北端の敵は漸次增加し今や一中隊を算す

前衛司令官は如何にして前面の敵を攻擊せんとするや

二中隊を第一線とするは最も同意するものなれとも砲兵陣地撰定に關しては種々の案あり該砲兵陣地に關しては更に研究するを以て玆に略す

同第七十六戰鬪後は勝者の疲勞も亦大なりと雖敗者は體力氣力共に一層困憊し其疲勞は始と極度に達するものなるか故に勝者は一意追擊を續行し以て最終の勝利を完うすへし此際各級指揮官は部下に對して過劇の動作を要求するにとを避く

第一線たる二中隊を如何に展開するや

1　各中隊共に約百五十米の間に二小隊を展開す

2　右翼中隊は三小隊左翼中隊は一小隊を展開し殘餘を援隊とす

右二案共に第一線の兵力を最初より優勢ならしめんとするにあり尙ほ第二案に於ては左翼の情況は尙ほ變化計り難きによる

又本道の兩側は共に右翼中隊をして擔任せしむ

へからす

歩兵操典第二部第三十戰闘を實行するに方り所要に充たさる兵力を逐次に戰線に增加するは大なる過失に

右二案共に同意する能はす殊に第一案の如きは實行し得へからさるなり現地に來り研究する以上(例ひ圖上に於ても明瞭なる時は)何處より何處迄と指示せさるへからす而も尙百五十米間に二小隊を散開せんとす一小隊を以て既に百五十米を要す如何にして此間に二小隊を散開し得へきや即ち左の如く散開するを要す

右翼中隊は街道西側約百米の地點より右に約三百米間に亘り二小隊を左翼中隊は右翼中隊に連繫して二小隊を展開し各一小隊を援隊となす之れ八反畠及北澤に出せし斥候より未た報告を得さると左側衛の行動未た不明なるによる

狀況

右翼八反畠に出したる斥候は異狀なく其村端に出て、射撃を開始し且つ異狀なきの報告達す此に於て右翼中隊長は更に一小隊の援隊を其右翼に延伸增加し今や敵の約一中隊の歩兵に對し二中隊を以て猛烈なる射撃を開始せり

砲兵陣地に關する研究

砲兵は先つ敵の歩兵と砲兵と何れを目標となすへきや

砲兵を目標とするもの歩兵を目標とするもの兩兵を目標とするもの

のとの三種あり

概略の位置を圖上にて研究すへし

多呂の高地及中村南端附近に選定せらる

多呂の高地は同意するを得す抑砲兵陣地は操典並に教程等に其性能を列擧しありと雖該性能たる時機に應せす狀況に合せさるに於ては何等の價値なし即ち狀況の範圍内に於て其性能を選擇すへし

性能を第一にして狀況を第二にし又は之を顧みさるは戰術研究の要旨に合せす急速に陣地を占領するを要する情況なれは速に陣地を占領して且つ欲する目標を射撃し得れは足りとせさるへから



属す此の如くするときは絶へす寡兵を以て衆敵と戰はさるを得すして自ら先制の利益を放棄し徒に損害を招くのみならす終に軍隊の志氣を挫折するに至るへし獅子は兎を打つに全力を用ゆ

す此際徒に陣地の性能に重きを置くは極めて不可なり之に反し防禦陣地に於て時間の餘裕あるに於ては成る可く性能を顧慮して許し得へき時間内に選定すれは可なり要するに情況と地形とを顧慮し時機に適し狀況に合せさるへからす目下の場合は速に陣地を占領し且つ敵の砲兵を射撃し得るを主眼として選定するを要す之れか爲めには中村附近に陣地を選定するを要す

中村附近に於ける砲兵陣地の偵察

多くは中村東方畑地に選定せられたるは同意す

狀況

敵の砲兵は大土肥東方標高33,22點附近に二門、大土肥東方高地に四門あり我右翼は敵右翼に二門を我左翼は敵左翼の四門を望見することを得

我歩兵前進を始むるや敵砲兵は我散兵に向て迅速射を爲す

我砲兵は急速陣地に進入し放列を布置す砲車間隔は如何に定むるや

定間隔と爲す之れ損害を減するか爲めなり

中隊段列の位置

中村北端に選定せられたるに同意す

狀況

我砲兵放列を布置するや敵の砲兵は猛烈なる射撃を爲す我砲兵も亦た之に應戰す時に我兵は右翼中隊は三小隊を以て左翼中隊は二小隊を以て第一線となし前進中にして左側衛は其一部を散開しつゝ北澤東北方地區を多呂の高地に向ひ前進中なり

我歩兵線は一進一止して今や右翼は八反畠南端に左翼は北澤中央と齊頭面にあり此際敵の砲兵は榴霰彈を以て我か歩兵線の左側方面より猛射し我か歩兵線は爲めに爆煙を以て覆はるゝに至る又中島北端の敵歩兵の抵抗も極めて頑強にして容易に前進する能はす

然れとも我歩兵は敵の歩兵よりも寧ろ敵砲兵の爲めに其前進を阻止せられあるか如し

砲兵隊長處置（當時我か砲兵は敵の砲兵を目標となす）

1　歩兵に向て目標變換を行ふ

2　一部を以て歩兵を主力を以て砲兵を射撃す

3　第二の反對なるもの

以上主なる理由は射撃に重きを置くか爲めに歩兵を目標とするを可なりとし他は敵火の効力上分火を必要とするにあるか如し

然れとも我か砲兵は依然敵の砲兵を射撃するを可とす之れ敵の砲火は我か歩兵に最も危害を加ふるによる操典にも最も我に危害を與ふるものを目標とすとあり

狀　況

砲戰の結果漸次敵の砲兵は衰へ我第一線は敵線二三百米に達する



や敵は退却を始め我か第一線は一部は追撃射撃を行ひ他は駈歩前進中にして砲兵は射撃の交換中なり

追撃隊長は中村南端にて此情況を目撃す如何に決心するや

狀　況

追撃隊長將に決心を爲さんとするや獨立騎兵より出したる將校斥候より左の報告を受領す

現在我砲兵を射撃中なる敵の砲兵は大土肥東北方33,22點に二門尚大土肥の東方に四門あり又大土肥及其東方高地には敵の歩兵らしきものを認む又蛇ケ橋以南に於て非常に混亂しつゝ退却中なり

又間もなく前衛騎兵より左の報告を受く

中島に在りし敵は歩兵一中隊にして大土肥に向て退却せり又大場橋梁は爆薬の不發なりし爲め幸にも完全なり

次て機關銃二銃及騎兵も亦中島に進入す

左側衛は多呂の高地を前進中なり

決心記載法に就て

斯くの如く任務上且つ情況上敵を攻撃するに殆んと決定しあるとき及理由も處置もなき時は決心は單に敵を攻撃せんとすと記載するは不充分なり宜しく主力を使用すべき方面を記載すへし

決心左の如し

1 多呂の高地に主力を用ふるもの其理由とする所は迅速に面より主攻撃を行ふ時は我か右翼危險なると多呂の高地よりする時は攻撃容易なるとによる

2 大塲間宮方面より主力を用ゆるもの其理由とする所は大塲間宮方攻撃し得ると敵の退路に迫り得るの利益あるによる

此際追撃隊長の決心としては敵の退路に迫るの目的を以て主力を以て大塲に向ひ急進するを要す(決心の云ひ現はし方不可なれとも後の研究の爲め略す)

敵は蛇ケ橋以南に於て混亂中なり故に攻撃に方りて我右翼には大なる顧慮を要せす又退却軍志氣の沮喪は殆と豫想以外にあり然れとも此志氣の沮喪は時間を經過するに從ひ漸次恢復す即ち攻撃は成る可く速かなるを要す之か爲め大塲方向よりするを最も速かとす且つ敵の陣地は其退路の側方にあり彼れの退路に迫るは彼れの最も痛痒を感する所なり彼れの痛痒を感する所は即ち我れの乘すへき處たり而も多呂の高地方面より攻撃するに比し其難易の點に於て更に輕重なきをや況んや今多呂方面に轉進し山地を經て更に攻撃するに至りては時間を要すること多く追撃隊の攻撃の要旨に合せさるなり

北軍追撃隊柏谷高地攻撃配備の略圖

日露戰史を見るに鴨綠江河畔の我か第一軍と對戰せし「ザスリッチ」軍の一度敗退するや所謂風聲鶴唳の狀態にて自軍の騎兵の退却を見て日本軍としてを爲し又は夜間自軍斥候の歸還を見て日本軍の斥候となして夜襲を報するの等實に吾人の想像も及ばるなり

本道（輕井澤に通する街道）方面の配備

前衛（二中隊）を此の方面に使用す其右翼中隊の左翼小隊は本道上橋梁の東方獨立家屋の東側より其北方約百米の生籬附近迄散開他の小隊は其左翼に連撃して散開各中隊共二小隊宛散開す

射撃目標は本道上の部落及其東北方の高地上にある小林に據る敵の歩兵とす尙此の方面には機關銃二銃を使用する豫定なれとも目下は大隊長の手裡に置き尙は使用せす使用に際しては本道より前進せしむるを可とす

攻撃點を本道附近に撰定せしもの多し

其理由とする所は蔭蔽近接の利多く尙ほ蛇ケ橋方向即ち敵本軍に對する我右翼の危險少しと云ふにあり

蔭蔽近接は何等の輕重なし無理に之有りとするも五十歩百歩なり

又敵本軍に對する顧慮は適當の處置即ち豫備隊の位置選定等により防き得るのみならす敵は今や蛇ケ橋附近に於て混亂中にあるか如し窮鼠云々の理由は苟も戰鬪は敵の殲滅を希望して居る以上は之を以て攻撃點を他に撰定するの理由とするに足らす殊に本日の場合に於て然りとす

要するに此際敵の最も苦痛とする其退路に近迫せんか爲め敵の左翼に向ひ攻撃方向を撰定するを要す而して左側衛は多呂上澤方向より使用すへし

砲兵陣地を多呂の高地或は北澤南方畑地に選定せるもの多し

其理由は中島に轉進せは敵砲火の爲めに全滅に陷るやも知れさること又多呂も北澤も我撰定したる攻撃點を充分射撃し得ること

本道を前進するも我歩兵を以て敵砲兵を盛に射撃せしめ敵の砲火を我歩兵に引き付け此時機を利用して急進せは大なる損害なく前

進し得へく尚ほ損害を受くる點に於ては北澤に轉進すると大差なかるへし又本道を攻撃點とすれは北澤の砲兵は射撃し得れとも大土肥を攻撃點とすれは攻撃する能はす況んや追撃戰は一地に固定的のものにあらすして早晩敵の退却を豫期して速に再ひ打撃を與へさるへからす從て將來進出の容易なるを顧慮せさるへからす多呂の陣地は進出甚た困難なり且つ多呂の陣地は大土肥南方に對しては射距離大に過く從て敵本軍の增加隊あるものとするも決して有効なる射撃をなし得す又追撃隊長との連繫も極めて困難なり北澤の陣地も亦多呂の陣地と大差なし要するに此の二陣地の缺點は更に追撃に當りては直に之を使用すること能はさると攻撃方面を十分射撃し能はさると追撃隊長との連絡極めて困難にして從て協同動作十分ならさるにあり追撃隊長によりては砲兵陣地によりて其攻撃點を決定せしものあり今日の情況に於て砲兵陣地の爲め攻



撃點を決定するは誤りなり蓋し右の如きは他に全く砲兵陣地を發見すること能はす而も敵は頑強にして到底砲兵の威力を有するにあらされは攻撃し能はさる時の一法にして常に砲兵陣地によりて攻撃點を撰定すへきものと誤解すへからす戰場の主兵は歩兵にして他は歩兵をして戰闘の目的を遂行せしむへき補助兵種たるのみ

追撃隊長の位置を間宮東側の小流を越へて撰定せるもの或は第一線と同樣に位置せし者あり

指揮官の位置を通常無意味に決定するもの多し指揮官の位置は指揮の關係上大に顧慮を要すへきものとす小流を越へて而も水田中に位置せは諸報告命令の受領を如何にせんとするや又戰闘の初期第一線と同線に位置するか如きは全く無意味なり又無意味に砲兵陣地に其位置を選定せしものあり砲兵陣地に選定するは多くは該

陣地は全く全般の觀察に便なるを以ての故にして常に砲兵陣地に位置すべきものにあらざるなり

本日は始めは砲兵陣地に在りて全般の指揮を採り第一線既に逐次前進し我豫備隊又鐵道線路附近に進出せしは直に豫備隊の位置に移るを可とす

間宮東側の小流の偵察を怠り直に此小流を越へて散開せしものあり本道より下流水車に至るまて水深人を沒する程にして現在の儘にては散兵と雖通過せしむるを得す但し僅かの注意を拂ひて偵察せしは通過し得るに至る即ち水車場水門の閘を破壞する時は僅に二十分間に流下せしめ得へし偵察者は偵察せしも戰時實際に於ては水車の運轉なきを以て水深淺しとの觀察なれは可なり然れとも以上の考へなく全く偵察せさりしは該演習の目的上極めて遺憾なり

間宮東側に散開せる歩兵三中隊の部署

先つ左翼中隊を無名祠方向より鐵道線路に中央中隊は左翼中隊の掩護により一躍進して鐵道線路に右翼中隊は續て二三躍進して鐵道線路に據りて散開す此際左翼は全部中央は二小隊右翼は一小隊散開しあり

同時に機關銃二銃を右翼中隊及中央中隊の中間に出し共に大土肥の敵歩兵に對し射撃す

戰　況

我歩兵の全線は漸次前進我砲兵は一部を以て敵砲兵に主力を以て敵歩兵を射撃す

此狀況に於て歩兵に右翼より逐次攻撃前進するを可とす右翼の前進は蛇ケ橋方面に對し危險なりと雖も豫備隊を右翼後に位置せしめしを以て變に應するを得へし故に徹頭徹尾敵の退路に近迫する

の目的を以て右翼部隊より前進するを可とす（若し敵火の効力全線に大差なき場合に於て）然れとも以上は之れ指揮官の希望する所にして實際に於ては前進し易き中隊又は勇猛なる中隊より逐次前進するを自然とす

我か歩兵は益敵陣地に近迫し敵も尚ほ勇猛に應戰中間もなく敵砲四門退却を開始す

我歩兵は敵前三百米に接近せり本道方面の二中隊も益前進す

我か第一線部隊は既に一つの援隊もなし

當時追撃隊長は豫備隊たる一中隊と機關銃を以て鐵道線路附近にあり

追撃隊長中該豫備隊を第一線に增加せんとするもの多し大土肥の村緣の狀況より判斷するも敵の大土肥にあるものは約二中隊ならん既に之に對し我三中隊を對峙しあるを以て豫備隊を第一線に增加せす追撃隊長は尚ほ他に使用の希望を以て依然手裡に掌握し置くを可とす

二　戰況

第一線部隊は敵前百五十米に近接し敵の歩兵は遂に南方に退却を始む

第一線にある中隊長として直に突撃に轉するは同意なり

第一線諸隊は今や大土肥に向て突撃を實施す此時に於て追撃隊長は敵の退路に近迫すへき目的を以て仁田と下田街道の中間地區を歩兵一中隊と機關銃二銃を以て前進す

砲兵は間宮南端に陣地を變換せしむ

大土肥附近に於ては未た退却し能はさる敵と我三中隊は格鬪戰を起し敵は殆と捕虜となり又は殺傷せらる而して敵の砲二門も亦我か有に歸す退却したる敵の歩兵は我豫備にある一中隊及ひ機關銃

野砲兵操典
砲兵陣地の變換は何れの場合を問はず一時射撃の効力を失ふものなり故に戰鬪の目的を達する爲め必要なるにあらされは之を爲す可らす
陣地變換は軍隊指揮官の命令にあらされは之を爲すを許さす時機之を要すれは砲兵司令官は其兵を許可を請求することを得然れとも戰況に依り神速に前進を要するときに限り自ら其責に任して適當の處置を爲し直に之を報告すへし
臂力を以てする如き些少の轉位は陣地變換と認めす

の爲め或は殺され或は負傷し敵の退路は負傷戰死者を以て充たされ蛇ケ橋方向に敗走するに至る

想定に關する主要の研究事項左の如し

最初の問題に對し

一　砲兵を前衛に附する可否

二　右側衛は左側衛を出すや否や及其兵力

三　機關銃の配備に關し

第一回の衝突に關し

一　砲兵陣地の選定の要領（情況を第一にして其範圍内にて陣地の性能の可なるを求む）

二　前衛の獨力にて攻撃する方法

三　攻撃方向の決定

第二回の問題に關し

一　攻撃方面の決定

二　砲兵陣地の研究

三　機關銃の使用

四　豫備隊の使用

五　指揮官の位置

敵の陣地に關して

敵の後衛としては一地に永く固着するは後衛普通の戰法として不可なり故に若し後方に故障なけれは中島の歩兵と同時に退却するを至當とす然るに本日の如き情況を現出せし所以は既に狀況中に現はれたるか如く其後方蛇ケ橋は未た混亂中にて是非共後衛の本日の如き抵抗を要求せさるを得さるに至りしを想定せしものなり

## 第四想定

一　本日（廿六日）午後一時頃田京附近に到着し得へき師團の隘路進出を掩護すへき任務を有する南軍支隊は六月二十六日午前八時前衛本隊の先頭を以て守木附近に達す
此時迄に支隊長の知り得たる狀況左の如し
一　昨夜御殿場附近に宿營したる諸兵連合の敵は本早朝宿營地を出發し南進したるものゝ如し
二　我騎兵中隊は目下大場、三島間を前進しある筈なり
又午前五時三十分伊豆島田發將校斥候の報にょれは當時同所以南には敵兵を認めす

二　支隊の編組
長少將某

歩兵第三十四聯隊（機關銃一隊）
歩兵第十八聯隊第一大隊
騎兵第三聯隊第一中隊
山砲兵第二大隊（一中隊欠）
工兵第三大隊の一小隊
衛生隊半部

注意　三島以南の水流は徒渉極めて困難なり

午前八時に於ける支隊長の決心

1　三島附近に進出せんとするもの
2　柏谷附近に陣地を占領せんとするもの
3　長崎村附近を占領せんとするもの

抑も決心は任務敵情地形を顧慮するは勿論なれとも殊に任務に重きを置かさるへからす操典に即ち任務は決心の基礎なりとある所以なり然るに戰闘は常に敵を撃破すれは可なり又敵を撃破すれは如何なる任務も之を達成す可しとなし一意前進するものあり斯くの如きは未た任務の如何決心は何に依りて爲すへきかを知らさるものなり若し果して右の如くなれは常に敵に向て前進するにありて他に何等の決心も要せさるなり決心は斯く單純なるものにあらさるなり戰爭の目的は敵を撃破否殲滅するにあり然れとも兵力の未詳なる敵及地形の我れに利あらす而も任務は是非共敵を攻撃すへきを要求せす又撃破すへきを請求せさるに戰爭一般の目的を以て決心の基礎とするは戰術研究の要旨にあらす目前の小勝を欲して却て任務の重大なるを忘るゝ勿れ然れとも敵にして苟も誤りを冒し乘すへきの機ある時は直に之に乘して戰闘一般の目的を達するは常に必要條件なり只敵情地形も顧みす殊に任務を捨てゝ常に戰闘一般の目的を以て決心の基礎となすを不可なりとす誤解な

築城教範陣地の選定は主として我軍の目的及彼我の情

きを要す

三島中島間の地形は既に已に知る如く數條の水流は徒渉極めて困難にして且つ北方に對して扇狀形を爲すを以て此附近に於て敵と遭遇戰を交ふるに於ては地形は敵に有利にして我れに不利なり又陣地を占領する爲め北方に進むに從て陣地占領に要する時間に乏しく又適當の陣地を發見する能はす之を南方に求んか占領の時間を得ること比較的大なりと雖隘路口に近きを以て師團の進出に不便なり

以上の理由に依り觀察する時は柏谷附近の高地は任務上最も適當なるものならん即ち陣地占領には充分の時間を有し師團の隘路進出には決して不便ならす地形亦比較的堅固なれはなり

尙ほ一言を重ねんとす戰爭は其大小を問はす常に敵を殲滅するを以て最も主要とす又出來得れは常に之れを努めさるへからす然れとも任務に依りては危險を冒して迄も之れを努むへきものにあらさるなり今や支隊は柏谷附近に陣地を占領せんとす之れ徒に戰を避くるにあらす又妄りに敵を恐るゝにあらす支隊目下の急務は師團の隘路進出を掩護するにあり漫りに敵と戰を交へ(兵力未詳なる敵と且つ我れに不利なる地形に於て)若し敗退の不幸に陷る時は將來師團の隘路進出は何に依りて之を掩護せんとするや吾人は常に任務の爲めに戰ひ(全滅の明瞭なる時又は成効の公算なき時も任務の爲めには常に攻擊すへきものなり)任務の爲めに遺憾なから戰を避くることあるを記憶すへし況んや陣地を占領するも機會たにあらは直ちに攻勢に轉するを以て原則とするにあらすや又常に此機會を發見するを努めさるへからす

以上の理由に依り支隊は柏谷の高地附近に陣地を占領するに決定す

況に依り之を決定す故に多くは地圖に依り一般の位置を決定したる後精密なる僚案を爲すものとす

歩兵操典第二部第五十七
陣地を占めんとするや通常其前方に一部隊を出し以て我陣地占領を掩護せしむ敵に近きときは之か爲少數の歩兵部隊を以て一時抵抗を爲さしむるを要することありと雖通常騎兵をして……

決心に對する第一處置として先つ前衛大隊の内より大隊長の指揮する二中隊を陣地占領掩護として中島村に派遣す該掩護隊は其主力（二中隊と一小隊）を中島北端に位置せしめ一小隊を夏梅木南方高地に一小隊を中村北端に位置せしむ而して該各小隊より兩側に有力なる停止斥候を派遣す

主力を中村附近に出すものあるは絶體的に不可ならさるも中村は本陣地と距離遠きに失し孤立の姿勢に陷り易し且つ中村と中島間は約八百米の開濶地にして退却に當りては極めて困難なり故に主力は中島に置くを可とす然れとも敵の斥候等にして中村以南に進入するときは直に我本陣地を察知せらるゝの恐れあるを以て出來得る限り敵をして中村以南に進入せしむへからす之れか爲め爰に一部隊を出すの必要あり而して此の一部隊は退却に際するも兵力は少數にして殊に後方主力の爲め收容せらるゝを以て散て困難にあらさるなり又既に本陣地占領終り掩護隊の必要なきに至らは該部隊は殘留して操典に所謂永く我陣地を敵に秘する爲めの停止斥候と爲すの豫定なり

中村に派遣せられたる小隊の處置

同村北端に蔭蔽して位置す然れとも常に進退自由の準備あるを要す

下士斥候を谷田及青木方面に派遣す

夏梅木南方高地に在る小隊と連絡をなす

家屋上に下士を展望哨として出す時々小隊長自ら展望するを要す

一小隊面の立射散兵壕を村端に構築す

中島にある主力の所置

中島北端にある主力は道路の左側に二小隊分道路の右側に一小隊分の散兵壕を構築す

道路の屋上に將校の展望哨を出す

支隊長は前衛本隊の守木村に達するに先ち柏谷附近に陣地占領の目的を以て一將校斥候を派遣す該斥候は成る可く速に陣地を偵察して支隊の行軍途上に於て報し得るを要す

將校斥候の柏谷附近の偵察

偵察に關しては未た其要領を得さるもの多きを遺憾とす先つ與へられたる時間に依て圖上に於て研究する時間偵察に要する時間及報告作業に要する時間の三段に區分するを必要とす然るに圖上に於て豫め計畫せす從て偵察すへき順序方法も決定せすして直ちに駈足を以て飛出すか如き其結果唯漫りに陣地内を東奔西馳するのみにて終に一つの決定案もなく時間は益々經過す遂に自已自らも亦不安なる作業を爲すに至るものなり殊に本日の如き短時間に偵察せんとするには先つ圖上に於て出發點より偵察地に至る時間及歸還の時間從て偵察の時間を計算計畫せさるへからす而して其偵察は之に費し得る時間に從て適當に必要なる偵察を爲さゝるへからす平井村北方一本松の高地の如きは其位置高くして我陣地全般の景況を目擊し得るのみならす敵の現出し得へき地域殊に上澤村北方の山地の景況を充分視察し得るを以て該高地は偵察者の最も留意着眼せさるへからさる所たり故に本日の偵察には先第一に一本松の高地に至り陣地全般の價値を研究し大體の配備を決定し歸途柏谷高地の西北端を廻り大土肥に出て各地區の戰術上に及ほす概略の利害を視察すれは足れりとす然るに將校斥候中一本松高地の必要なるを知りなから該地に至らさるもの又は全く着意せさるものあり偵察法に關しては大に注意研究を要す

將校斥候は偵察の結果を略圖を以て報告すへし(十五分間)

報告略圖を詳細に作爲せられたるものあり報告を爲さんとするに

は先つ受報者の爲め如何なる事項を以て主要なるかに着意せさるへからす本日支隊長の知らんと欲することは陣地細部の占領法にあらすして却て陣地一般の價値、概要の配備にあり之に依て陣地を決定し概署の配備を決し以て配備の爲め分進せしむるを要するや否や等を速に知らんとするにあり偵察に要する時間の少なきも亦之か爲なり故に偵察者は略圖上に陣地一般の價値及大要の配備を記載するを以て充分とす此際各中隊の位置、砲兵中隊段列の位置等詳細の事項を記載するか如きは徒に時間を浪費し報告を遲緩せしむるのみならす如期報告は至短時間の偵察に於て決して爲し能はさる所なり若し强て斯の如き報告を爲さんとすれは却て誤りを生するの恐れあり且つ該報告は南條附近に於て支隊長に呈し得る如くするを要す

敵の主攻撃方面並陣地に於ける兵力部署に於て

1 主力を右翼に用ひしもの

2 同　中翼に用ひしもの

3 同　左翼に用ひしもの

左に先敵の攻撃方面に關し研究せんとす

敵の主攻撃を中央よりと判斷せし理由如何

我本軍の進出せさる方面を選定せり

然らは我右翼方面は地形錯雜なるを以て敵は其主力を用ゆることなかるへし

右翼方面は尙ほ更可ならすや

地形錯雜せは主力を用ゆること能はさるや

運動困難なれはなり

然らは運動最も容易なる我陣地の左翼を選みては如何

此陣地中敵に占領せられて最も痛痒を感する所は何處か

右翼平井東北高地なり

然り此地點は充分なる兵力を配備するを要す

實に諸君の言の如く我陣地に對し敵の大竹上澤方向よりする攻撃は運動困難なり然れとも該運動は敵前の運動にあらすして從て敵の射撃下に於ける運動の困難なるに比し攻撃運動容易にして而も我師團の進出方面即ち彼れの右翼に關する顧慮少なし然るに間宮方面よりするときは運動は容易なるも我陣地前に出つる前より我射撃を受け又陣地前に出つるや攻撃前進間我射撃を受くること極めて大なり即ち何れの方面より攻撃するも一利一害あるは數の免れさる所なり然れとも大竹上澤方向よりする攻撃は其運動困難なりと雖既に云へるか如く射界外の運動にして且つ大なる迂路にあらす又攻撃せんとする地點は兩側の高地漸次近接し且斜面緩傾斜となるを以て攻撃は又困難ならす又我陣地の最も痛痒を感する方面は我右翼にあり若し萬一我右翼又は一本松附近にして敵の占領する所となる時は我陣地は最早之を支持すること難く一旦該陣地にして敵の領有とならんか我師團は又到底該陣地前に於て進出すること容易ならさるへし故に假りに敵の主攻撃は大竹上澤方面よりせさるも此一本松方向には有力なる敵の一部は攻撃し來るものと判斷せさるへからす又敵の主力にして我右翼にある時我師團の進出は其主力を間宮方面に用ゆるに比し彼の痛痒少なし即ち我は痛痒を感し彼れは痛痒少なし即ち敵は我右翼に向て主力を用ゆるものと判斷するを以て至當とす

間宮方面よりする數の攻撃は地形は運動に容易なりと雖も既に北澤附近より我射撃を受け且つ今より故障なけれは三時間後に進出すへき我師團を顧慮し敵は其右翼を充分南方に伸はすこと能はさるの不利あり若し假り我左翼より攻撃するものとするも我は高地

に固着して師團の來着を待つを得へく一旦師團の進出するあらんか敵は全く其側背を絶たれ全滅に陷るの憂あり又敵は一部を以て我陣地に對せしめ主力を以て我陣地の左前方を迂回して蛇ケ橋方面に至ること能はさるへし若し之ありとすれは之れ支隊の實に乘すへきの好機なりとす

要するに敵の爲し得へきことにして我れの最も苦痛を感すへき方面即ち大竹上澤間より敵の主攻撃を受くるものと思考し配備するを緊要とす

終に一言す敵情を判斷するは極めて困難なり然れとも一の根據を決定して之に基き判斷するときは敢て困難にあらさるなり然るに漫りに敵は斯くせん或は斯くもあらんと敵の爲すへきことを云ふは之れ一つの根據なく徒に想像に流るゝものなり想像を云々するときは終に際限なきに至るものなり故に敵情を判斷するには自己の



任務上敵の處置の如何なるものか我れに最も苦痛を感せしむるかを研究すへし即ち敵は我れの最も苦痛を感することを爲さんとするは之れ當然なることにして若し萬一最も苦痛を感する處置に出さるときは之れに過きたる幸福なかるへし之れに反し最も苦痛を感せさる方面に對し敵の處置するものとして之に對しある時苦痛の方面に處置せらるゝ時は終に如何とも爲す能はさるに至るへし更に一言す以上の理由は極めて冗長なり然れとも之各作業に對し成る可く一々研究せんか爲めなり作業として其理由を記載し又は口述する時は決して右の如く冗長ならさるを要す

右理由に依り大體の配備を二地區に分つ左の如し

獨立標高西北方約四百米の高地端より平井村東北方約千米突の最高點に至る間に聯隊長の指揮する歩兵二大隊機關銃二銃大土肥仁田に歩兵一大隊（右翼に連繫して）

築城教範第十陣地の設備をなすに當りては其目的決戰を行ふにあるか或は時間の猶豫を得るにあるかに應し工事の施設を決定す

築城教範工事は之を連續せる火線となすことなく通常大隊毎に集團せしむるを可とす

山砲兵一大隊（一中隊欠）は獨立標高33,22附近（專ら我右翼前の谷地を側防し得る如く）

豫備隊は柏谷村西方凹地に一大隊と工兵一小隊、機關銃四銃

騎兵中隊は蛇ケ橋附近

工兵小隊は仁田附近の道路及橋梁の修繕（將來進出容易の爲め）

一　右翼地區の左翼（平井西南方高地端）散兵壕構築要領

左翼地區に二中隊分の散兵壕を構築す斯の如き斷崖を直前に有する高地端に於ては射撃の方向は比隣地區前の側方を主眼とせさるへからす又各中隊に射撃すへき地域を與へて敵に安全地界を與ふへからすと云ふ操典の原則を顧慮するを要す

一　平井村北側谷地の地形判斷

平井村北方谷地は北方に到るに從ひ緩斜面をなし東西高地は相接近す故に敵か我右翼方面より攻撃せんか上澤東北側高地より掩護射撃を爲さしめ之れに依て其前進亦た從て容易なるを得へし之れに對し平井村西端を占領し竹籔を所々に伐截し成し得る限り多くの散兵壕を構築し此地區に二中隊を配備するを要す又右翼に更に一中隊の散兵壕を構築し平井村東北側一帶は一大隊を以て其守備に任するを可とす

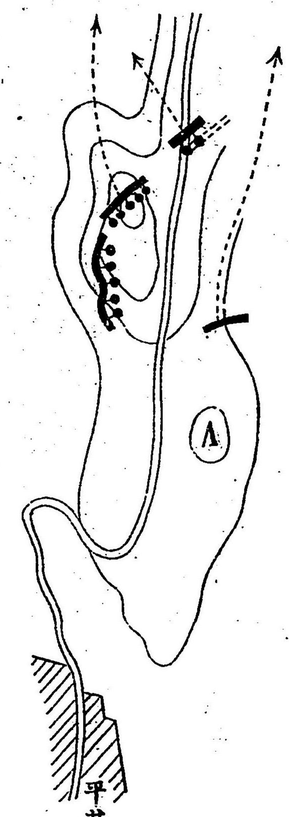
機關二銃は平井村西端高地凸出部附近に置き北側斜面脚を側防せしむ

一　陣地の最右翼

支隊長か右翼の限界を一本松（平井東北側高地端）附近と命令せしも之れ單に標準に過きす確固たる限界を示せしにあらす地區司令官は適當に地形を研究して決定するを要す

此際地形上敵は主力を以て大竹方面より我最右翼方面に攻撃すへきものにあらす然れとも既に述へし理由に依り一部は必す該

方面より攻撃し來るならん而して之が爲め又妄りに右翼を顧慮して次第々々に右翼を伸すに至りては未た陣地占領の要領を得さるものなり此際一本松東北最高點附近に於て右翼を托し以て堅固に右翼の據點を構成するを要す之れか爲め平井東北方約百米道路西側高地を最右翼として之れに二中隊を配備し堅固に工事を施設するを可とす




一　地區豫備隊の位置（右翼地區）

平井東側84,3の南方鞍部に二中隊を位置せしむ

敵の攻撃方向に就て更に一言せんとす敵の主力にして我右翼に來らは之れ敵をして迂回せしめたるを以て支隊の目的を達したるものと思意するものあるは餘りに師團の到着時間を確定し過き且此時間に重きを置き時間防禦の弊に陷りたるものなり師團は故障なく前進せは午後一時頃には田京附近に到着するならんも如何なる故障の爲め時間に差異を生するや否や未た不明なり若し師團にして本日中に進出以北に進出するや否や未た不明なり若し師團にして本日中に進出せす敵は又同時に本日は單に攻撃の準備に止まり明拂曉攻撃し來るものとせんか何等時間の餘裕を得たりと云ふ能はさるなり況んや右翼に來るは敵の爲め決して大なる迂回にあらす又運動困難より生する時間と殆と差異なきをや即ち此際餘り本軍到着の時間に重きを置きて計畫する時は時間の變化は引ひて任務の達否に關するに至るへし

時間は勿論任務達成上極めて必要にして大に顧慮を要すへきもの
なれとも今より三時間の後に本軍到着するを以て三時間又は三時
三十分間又は四時間支持すれは可なり故に敵を迂回せしめて三十
分間の時間の餘裕を得たりと云ふか如きは即ち餘り時間に重きを
置き過き不可なりとの意なり誤解なきを望む

想定に關する研究事項

一　決心は任務を基礎とし次て地形を顧慮すへきこと
二　短時間に於ける陣地の偵察法。手段順序
三　時機に合すへき報告の記載法
四　陣地の占領法(敵の攻撃し來るへき方向)
五　第一線諸隊の工事の經始及兵力配備

## 問題



中條――守木間に於て敵と遭遇を豫期して北進中なる支隊より派
遣せられたる將校斥候として
中條――古奈間の渡河點より田京に至る間の狩野川の偵察(次回
想定に關連す)

## 第五想定

一　足柄街道を南進する敵に對し速に下田街道隘路口を確實に占領すべき任務を有する南軍混成旅團は六月二十七日四日市町附近に於て敵と遭遇を豫期しつゝ前進し同日午後二時前衛歩兵の先頭を以て田京南端橋梁に達す當時前衛司令官は前兵長と共に前兵の先頭にあり同時迄に前衛司令官の承知したる件左の如し

1　敵は多くも歩兵五大隊を基幹とせるものゝ如く本日正午頃三島に達せり

2　目下敵の騎兵は南條東南高地に我騎兵は守木東方高地にあり て相對す又狩野川右岸に於ては敵の有力なる騎兵斥候は古奈附近に我騎兵斥候は天野西方高地にあり

3　騎兵斥候の報告によれは敵は二縱隊となり目下其先頭は四日

町土手和田附近に達せし筈なり

二　南軍混成旅團の編組並に軍隊區分

前衛

司令官歩兵第六聯隊長某大佐

歩兵第六聯隊（第三大隊欠）

騎兵第三聯隊第一中隊

山砲兵第二大隊第一中隊

工兵第三大隊第一中隊（一小隊本隊欠）

旅團司令部

歩兵第六聯隊の第三大隊

歩兵第三十三聯隊

騎兵半小隊



山砲兵第二大隊（一中隊欠）

工兵第一中隊の一小隊

衛生隊半部

之れより先き前衛司令官は將校斥候の報告に依り左の事を知る

（前回問題）

中條より田京に至る間狩野川は水深く兩岸は攀登すへからさる斷崖にして一連不斷の濃密なる高き數疊は通視は勿論歩兵の通過も亦極めて困難なり而して橋梁は中條、古奈間圖上渡船場の下流約二百米及白山堂小坂間に諸兵の通過に適するものあるも渡渉場は連日の降雨の爲め全く發見する能はす爲めに南條南端に於て敵と遭遇する時は我れは狩野川の爲め進出極めて困難なり故に一部を以て狩野川左岸の地區に進め速に南條以北に進出せしめ主力の南條附近隘路進出を援助せしむるを要す

午後三時に於ける前衛司令官の決心

一　前衛は守本東方高地を占領せんとす

二　前衛は南條東南方高地を占頭せんとす

三　前衛は主力を以て南條東南方高地を一部を以て吉奈西方高地を占領せんとす

右決心は概して任務に重きを置かす情況に關して決心したるか如し情況は固より決心に關する必要條件なり然れとも操典にある如く又既に再三陳述したるか如く任務は決心の基礎たるを銘心するを要す故に左の如く決心するを至當とす

前衛は敵に先んして南條を占領せんとす

遭遇戰の要訣は先制の利を占むるにあり而して南條の地たる旅團の任務達成上必要缺く可からさるものにして若し夫れ之れを敵手に委せんか旅團の任務達成を困難ならしむるのみならす其結果は



前衛司令官は指揮官の指示に從ひ又要すれは獨斷を以て前衛を部署し時機を失せす其任務を完うすることを勉むへし戰鬪の支障たるへき要地は繼ひ戰鬪を卷き起し又は正面過廣となる虞ありと雖も之を

續ひて來るへき本軍の作戰上に大頓挫を來すに至らん故に此際前衛司令官は我軍全般の爲めに決心を立つ可し即ち前衛は假令幾多の犧牲を供するも少なくも南條を占領し得るの公算を發見する以上は旅團をして先制の利を得せしむる爲め斷然たる所置に出てさる可らす

敵は我騎兵の占領しある守本東方高地を占領するは我れの敵の占領しある南條東南高地を占領するに比し極めて困難なり蓋し敵は其兵力を南條高地に展開せさるへからすして我は現在の儘直に展開して攻擊し得れはなり敵の砲兵を南條高地に上くるは頗る困難にして我れは直に放列を布き砲擊し得へし即ち南條高地は敵は既に占領しあるも之を奪取するは容易なり南條の高地を奪取するを得は之を據點として直ちに南條を我有にする事亦決して不可能にあらさるなり只た戰鬪は極めて悲慘に陷るへく損害又極めて大な

らん然れとも前衛は前衛の爲めに戰ふにあらすして本隊の爲め戰ふなり即ち任務の爲め戰ふなり本隊の任務は南條以北に進出せさるへからす非常の場合には非常の決心を要す目下の苦戰は將來の戰勝の基礎なり前衛にして此際徒に自己の苦戰を避けんか本隊をして如何にして任務を達成せしめんとするや本日の前衛の動作は一に懸りて本軍將來の作戰に關す大なる損害多くの犧牲は目下問ふへき時機にあらさるなり

以上の決心に基く前衛司令官の處置

多くは主として山上（高地）を選定して展開し且つ砲兵の如きも攀登困難なる山上に陣地を選定せられたり之れ全く同意する能はさる所なり此時に當り徒に地形の利に拘泥して時機を失するは戰術研究の要旨に合せす地形の利は狀況の範圍内時機の限界内に於て始めて價値を現はすものなり守木東方高地に砲兵陣地を選定し或は同高地に兵力を展開するか如きは普通の場合に於ける攻擊法のみ苟も時機を利用し時機を爭ふの處置にあらす固定的法則の器械的應用も甚しと言ふへし斯くの如き攻擊法は地形の關係及任務の如何を顧みす又時機の如何を觀察し能はさるもの丶處置のみ試みに思へ此際一分間は敵に十人の優勢を加へ十分間は敵に百人の勢力を與ふるものなり從て我は益攻擊の困難を生するものなり地形の利、砲兵陣地の性能は戰術書、操典にある原則に準すへきは固より必要なり然れとも原則は情況に合して適當に應用せさるへからす情況を顧慮せすして原則に從ふは原則の價値を滅却す如何に適當なる地形良好なる砲兵陣地あるも情況に適せされは何等の價値なし要は狀況の範圍内に於て原則に準據するにあり

占領することに疇躇すへからす前衛内の各指揮官も亦此要領に準して動作すへし

狀　況

前衛司令官の處に旅團長到着し左の意圖を授く

前衛は速に南條及南條南方の高地を占領し旅團の隘路進出を容易ならしむへし

本隊は一部を以て天野を經て南條方面に進出せしむる筈なり

前衛司令官は左の如く部署して決心を遂行せんとす

一部を以て守木東方高地を占領せしめ大隊長の指揮する二中隊を以て速に散開して南條高地の占領を命し更に一部を天野を經て南條北方に急進せしめ砲兵は速に陣地を占領して南條南方の高地の敵を射撃して歩兵の攻撃に協力せしめ殘餘は南條に向て急進將に右の處置を爲さんとするや南條南方の高地には敵の歩兵斥候出沒するを見る同時守木東方高地にも我歩兵斥候現出し互に射撃を交換す

今より右大體の考案に基き更に地形を偵察して前衛司令官の處置を略圖を以て示せ

三中隊以上の兵を守木東方高地に展開せしめたるものあり斯の如きは既に再三云へる如く時機に適合したる處置として認むる能はす之れ此高地に攀登する爲めには少くも二三十分を要し更に逐次に散開するには猶ほ多くの時間を要す假令迅速に高地を占領し得たりとするも最早疲勞の爲めに戰鬪力無く戰鬪力なき兵は散兵と言ふを得す高地に出すへき兵力は先つ一中隊を最大限とせんか蓋し此中隊は一は南條高地に對する攻撃を援助せしめ一は萬一を顧慮して第一線の收容に任せしむるにあり

須らく時機を考ふへし遭遇戰に於て殊に之を必要とす著し高地に多くの兵を展開し得れは前衛の任務達成は極めて容易なるへく從て本日の如く苦心する必要なからん

又山砲兵の爲め第二陣地の準備をなさゝるものあり此際將來戰鬪の進捗を顧慮し南條南方高地に進入の準備をなし置くにあらされ

は時機に應する動作をなすこと能はさるに至るへ可し

前衛司令官の處置として左の如くするを至當とす

一　前兵たる第一中隊を直ちに守木東方高地に散開し第一線の攻撃を援助せしむ

二　第二第三中隊を本道附近より西側水田中に散開し速に南條高地に向ひ攻撃せしむ

三　第四中隊を田京の橋梁より直に前進せしめ中條南方橋梁に向ひ前進して我南條の隘路進出を援助せしむ

四　砲兵は本道より白山堂に通する道路上に陣地を占領せしめ敵の一兵と雖南條高地に現出する時は直に之を射撃して南條高地の占領を容易ならしむ

五　工兵は第二中隊と共に前進せしめ南條高地に於ける第二砲兵陣地の進入路を修築せしむ

六　爾餘の諸隊は守木村に蔭蔽し高地脚に沿ふて前進す

爾後第一線歩兵中隊は砲兵射撃の援助によりて猛烈に攻撃前進を起す但し第一中隊は山上にあり之れ谷地を通過する部隊の爲めに援助射撃を爲すのみならす萬一攻撃の失敗に終りし際を顧慮すれはなり

七　以上攻撃進捗して第一線か南條南方高地の死角内に進入して前進を敢行するに至れは爾餘の諸隊は猛烈に道路上を南條部落に向ひ突進すへし

爾後は南條附近に於て激烈なる格闘戦となり我れは南條高地より敵の背後に向て射撃し敵は平地より我に向て射撃し悲慘なる戦闘は終に軍紀嚴肅勇敢にして且つ兵力の大なるもの戦勝の名譽を得るに至るへし

該想定は遭遇戦殊に地形錯雑せる山地に於て研究せり緒君は遭遇

戰に於ける先制の利は常に敵に先んして展開したるものゝみに歸するものと誤解すへからす斯の如き山地に於ては要點の占領は此目的の爲めに緊要なる條件なることを銘するを要す

想定に關する研究事項

一　前衛司令官の決心（遭遇戰に於ける）

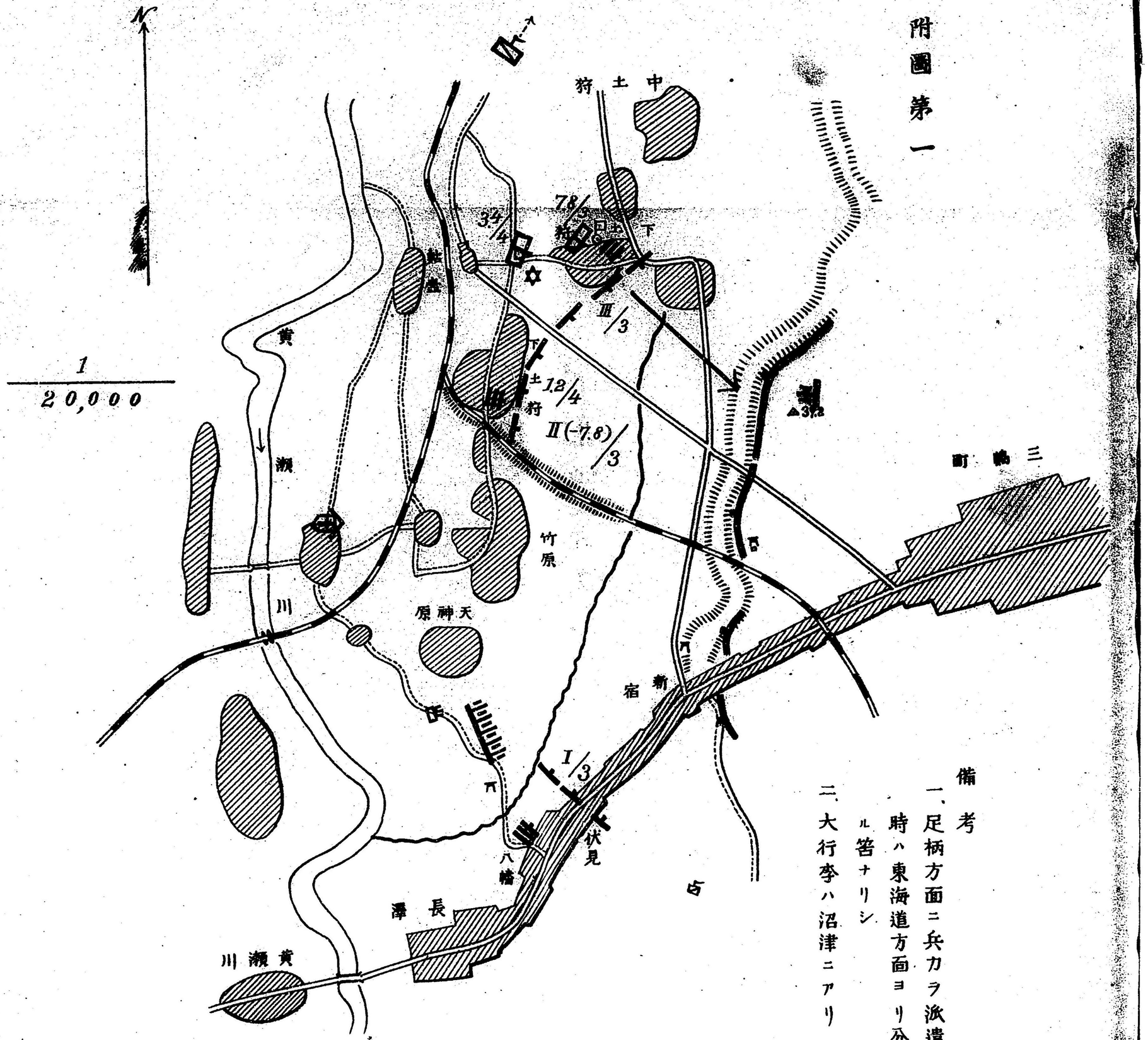
二　右決心に基く處置（殊に山地地形錯雜せる處に於て先制の利を占めんとす）

三　前衛の兵力部署

# 下土狩附近西軍混成旅團展開略圖

於一月十五日午前五時廿分

附圖第一



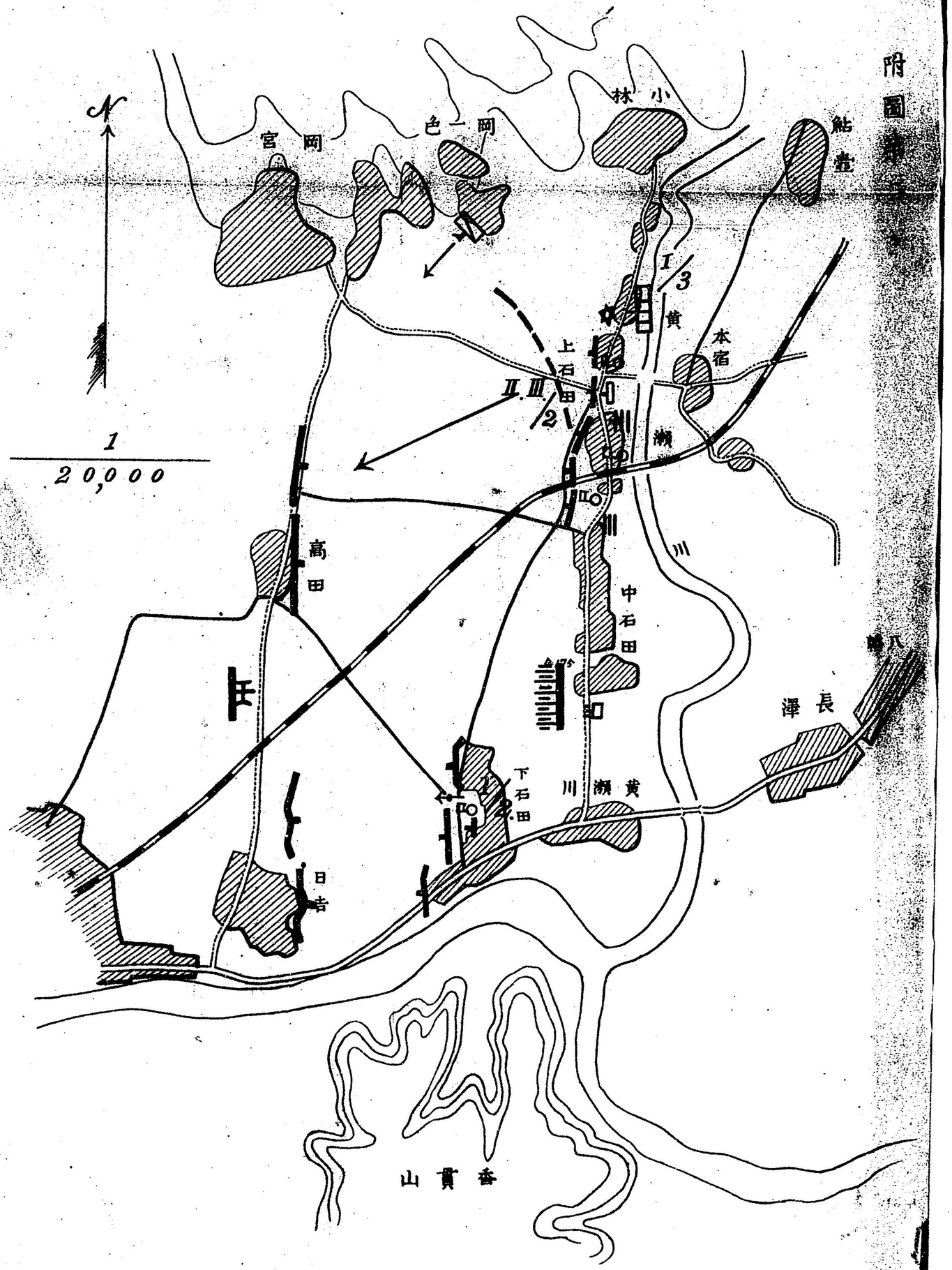

備考

一、足柄方面ニ兵カヲ派遣スル時ハ東海道方面ヨリ分割スルヲ要セリ

二、大行李ハ沼津ニアリ

# 上石田附近東軍支隊展開略圖

於三月十九日午前十時五十分

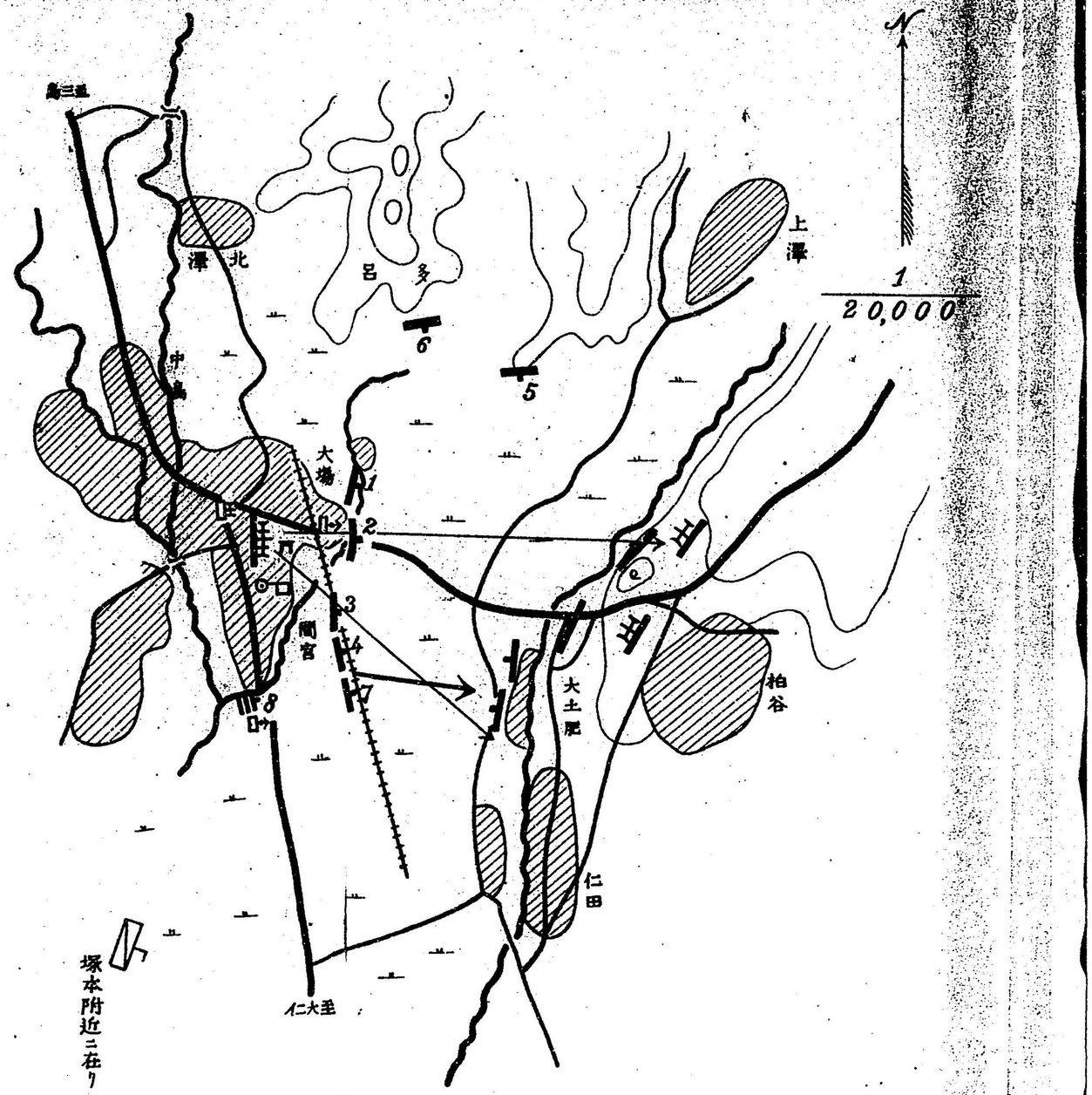



附圖第一

# 大場附近追撃隊攻撃展開略圖

六月二十五日正午ニ於ケル

附圖第三



明治四十四年四月四日印刷
明治四十四年四月七日發行

現地講話實所
定價金五拾錢

編纂兼發行者　東京市四谷區本村町九番地　安西理三郎

印刷者　東京市麹町區下六番町十七番地　松澤玨三

印刷所　東京市麹町區下六番町十七番地　同勞舍

發行所　東京市四谷區本村町九番地
軍事學指針社
振替口座東京九〇參壹番

## ●近刊報告●

●軍隊教育の羅針盤出てんとす●

緩生著

# 最新軍隊教育

製本中

今日ノ時代ハ昨ノモノニ非ス人之ヲ知リ之ヲ口ニス然リ而テ其爲ス所ノモノニ就テ之ヲ睹レハ其覺悟其眼識將タ其途ニ於テ依然トシテ舊ク且ツ卑クシ而カモ形ニ走リ本ヲ失フモノ夥シ夫レ軍隊ノ事一ニ人事情意ノ上ニ立ツ須ラク先ツ之ヲ究メ之ヲ察シ以テ臨マスンハアルヘカラス時弊ノ趨クトコロ之ヲ表ハスモノアルモ唯言辭ヲ列子テ實際ノ施設ヲ外ニシ或ハ時間ヲ計算シテ計畫ト稱スルノ類何レモ當ラス反テ之ヲ害ス玆ニ本書ノ出ツルアリ正ニ之ヲ濟フテ其眞ヲ得シムルモノタリ記ス所教育ノ計畫、各種教育ノ要領、新兵教育ノ打合、檢閲、軍人ノ信仰ト精神教育、個性ノ研究、內務ノ躾等根本ヲ明ラメ詳ニ其道ヲ講セリ西人言ヘルアリ教育者ハ教育ナリト又自家修養ノ資料タルモノ希フ之ヲ得テ布ケ著者ノ爲人ハ別ニ云ハス就テ察セヨト

東京市四谷區本村町九番地

發行所　軍事學指針社

（振替口座東京九〇三一番）

---

## ▲緊急廣告▼

初審試驗

# 受驗のために

定價七錢（三月二十五日發賣新刊）
郵稅二錢（殘本二六四冊）
（再版せず）

**內容要項**
- 携帶品と其利用法。
- 答解の書式。八ヶ條
- 答解の要領。十五ヶ條（草稿作爲法）
- 試驗場に於ける動作の順序

軍事學研究界の爲に微力を盡しつゝある本社は本誌愛讀者中其の一氏にても多數の合格者を得むとするを切望し目下要路に在る諸殿及既に入校の榮を得たる諸賢に就て、叩くに受驗の要訣を以てし、之を綜合歸納して此一篇を編むに至れり。」此際三錢印紙代用（一割增）差支なし。至急封入住所氏名一報あれ現下、一日の速なる繙讀は、一日の優勝を來さむ事本社が此書の內容に鑑みて責任を負ふ所なりとす

東京市四谷區本村町九番地

發行所　軍事學指針社

## ●最新刊●

▲操典研究の新資料▼

# 歩兵操典第二部 備忘錄

自戰鬪一般ノ要領 定價三拾五錢
至攻擊 郵稅六錢

# 同終編

自防禦 定價三拾五錢
至他兵種ニ對スル歩兵ノ動作 郵稅六錢

●本書ノ特色●

(一)明文ニ◎●○等ノ圈點、〔 〕〔 〕〔 〕等ノ括孤、或ハ數字番號點、線等ヲ記入シテ讀者ノ了解ヲ明快確切ナラシメ、且助詞、副詞ニ對スル注意ヲ忽ニスルコト無カラシメテ其意ノ有ル所ヲ讀者ニ對シ切實遺漏ナカラシメンコトヲ期ス

(二)明文ヲ解剖シ一々之ニ表題ヲ附シテ答解體ノモノト成シ、欄外ニ併記シテ讀者ノ記臆ヲ迅速深刻ニシ、且筆記答解ニ秩序有ラシメンコトヲ圖ル

(三)各條頂毎ニ一乃至二ページ半ノ餘白ヲ存シ、良好ナル紙質ヲ撰用シテいんきヲ以テスル研究ノ記入ニ供ス

▲陸軍大學入學志望者の虎の卷▼

東京市四谷區本村町九番地
振替口座東京三〇九一番
軍事學指針社

## 原則問答

# 是でもぬかぬか

改訂再版第一集
三版第二集
三版第三集
三版第四集
再版第五集

各冊 定價金參拾錢 郵稅金四錢

▲某大佐殿著 歩兵聯隊ト其活動 全一冊 定價金參拾五錢 郵稅金四錢

▲最新 地形學詳說 全一冊 正價金六拾五錢 郵稅金六錢

▲基本射擊教育 全一冊 定價金參拾錢 郵稅金四錢

▲某教官二名合著 命中ト効力 全一冊 正價金五拾錢 郵稅金六錢

▲軍隊統御法 全一冊 定價金貳拾錢 郵稅金貳錢

▲白里著 新步兵操典引戰術學教程證 初級戰術研究錄（訂正增補再版） 定價金五拾錢 郵稅金六錢

▲白峯生著 野外引要務令證 初級戰術研究錄 定價金四拾五錢 郵稅金六錢

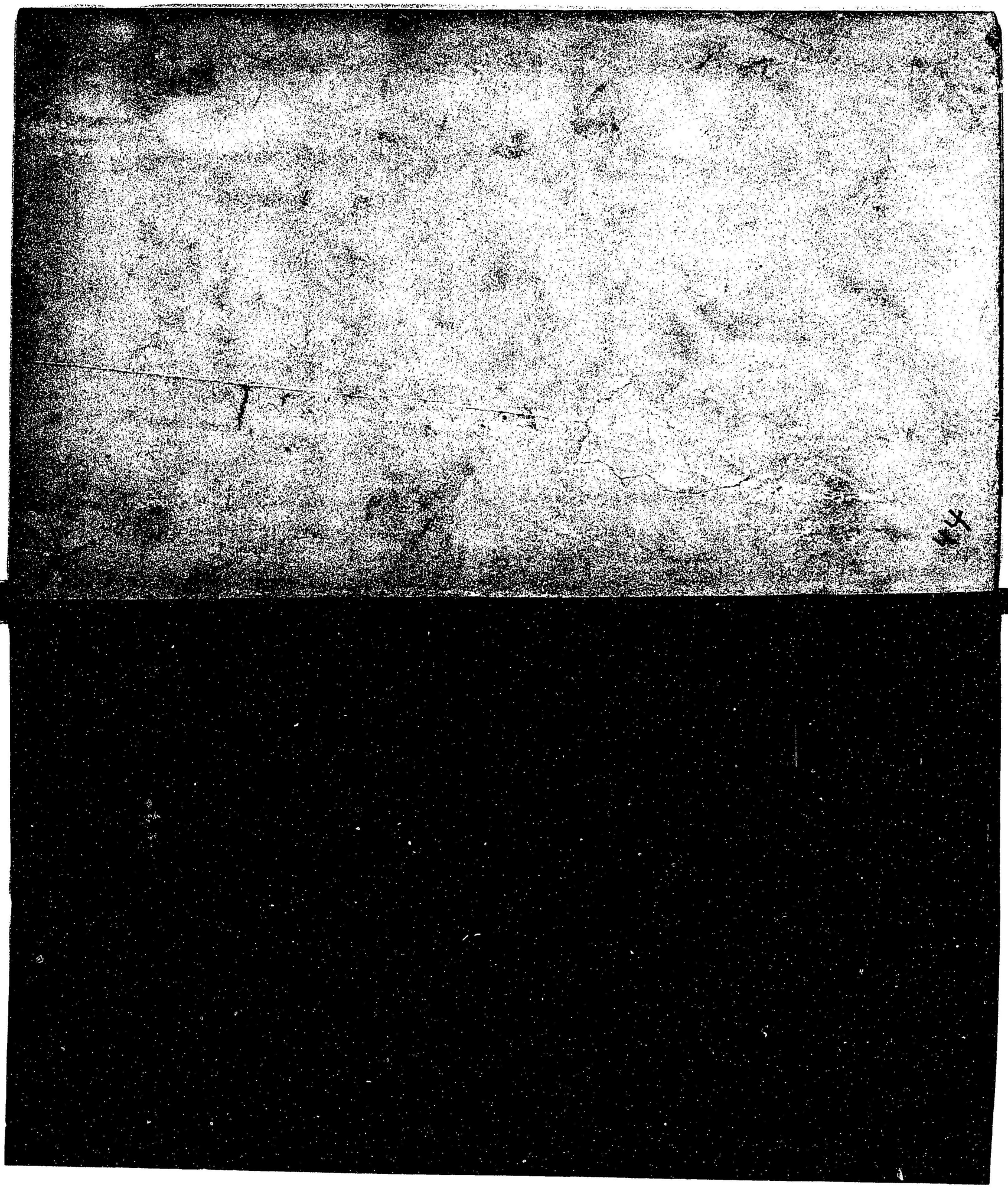
▲軍事學指針社編纂 兵器學常識問答 定價金四拾錢 郵稅金貳錢

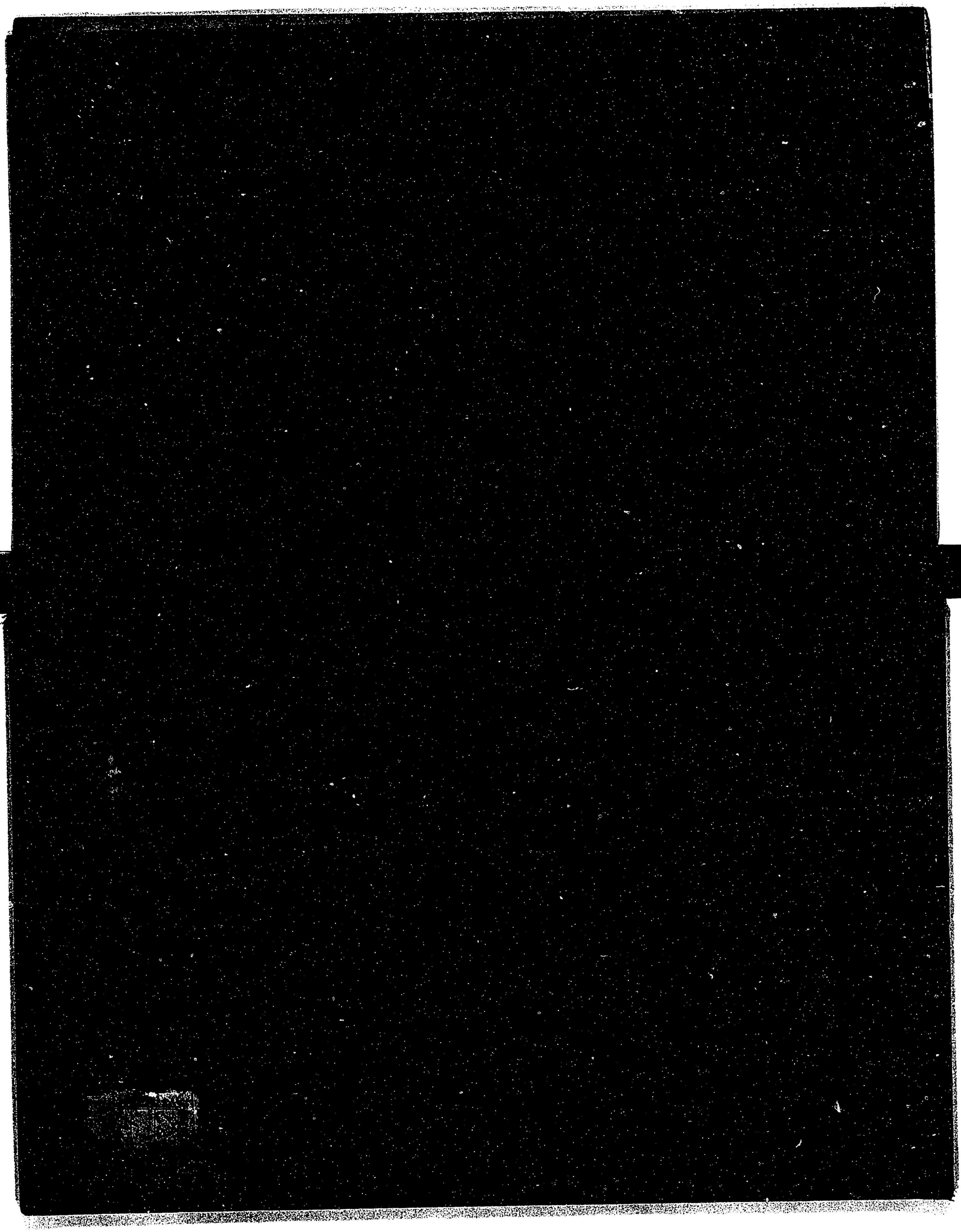
▲新舊（改正草按）對照 步兵操典 定價金四拾錢 郵稅金六錢

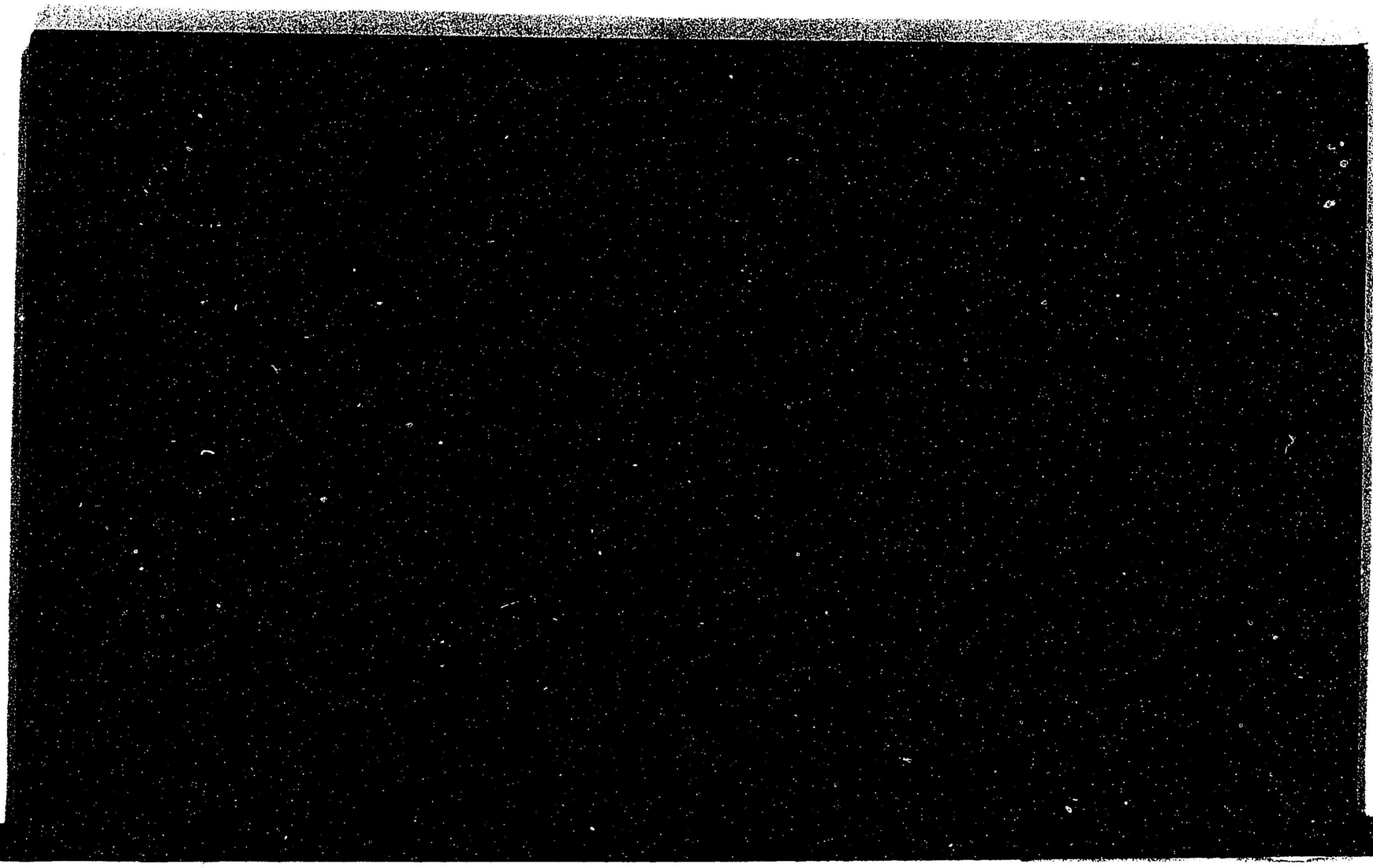
▲陸軍步兵大尉竹丸豊次郎殿著 新兵野外教育計畫 定價金參拾錢 郵稅金四錢

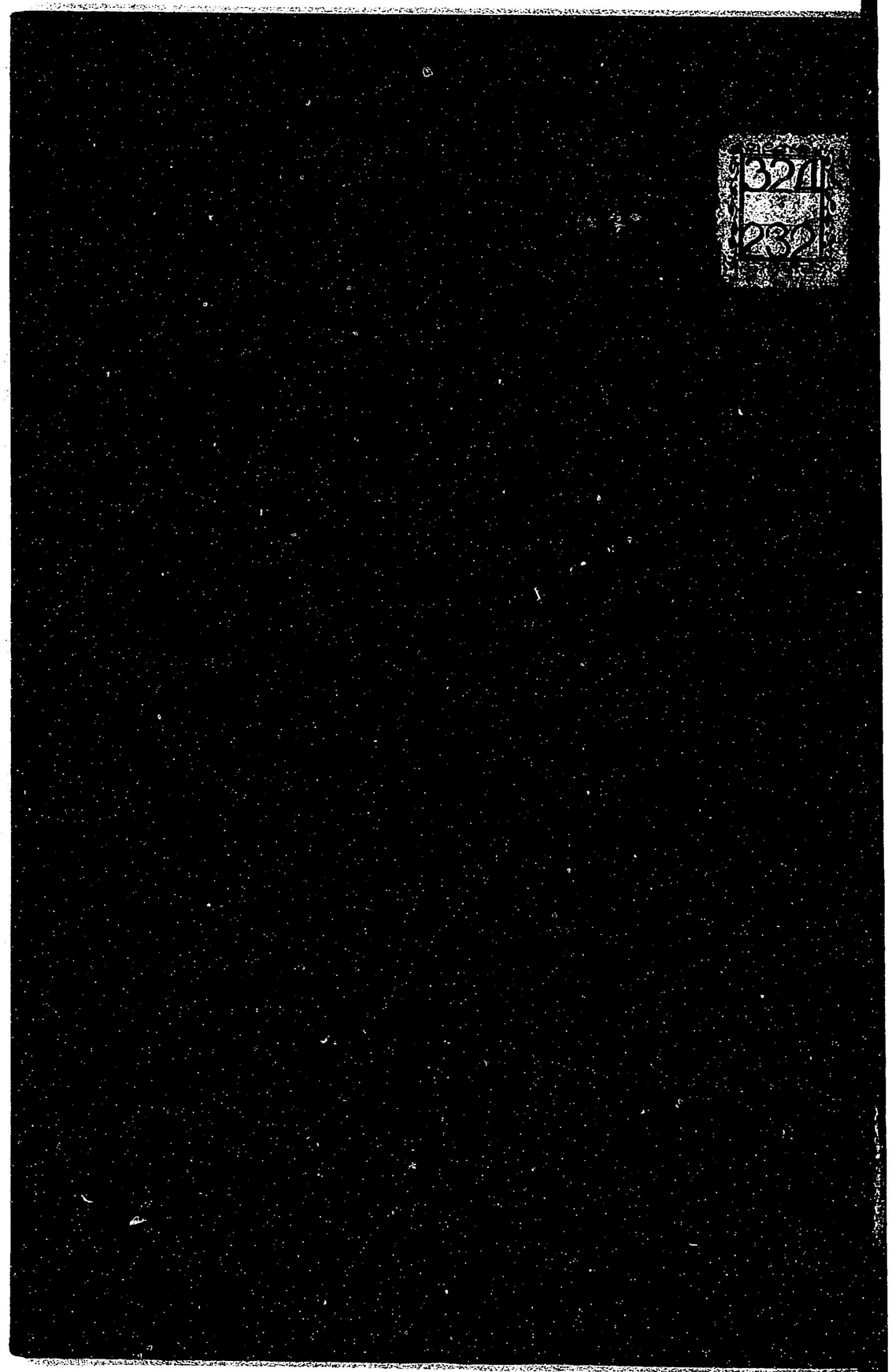
▲測板測圖必携 附手簿 全一册 定價金拾錢 郵稅金貳錢

發行所 東京市四谷區本村町九番地 菊地屋 軍事學指針社 振替口座東京九〇三一番







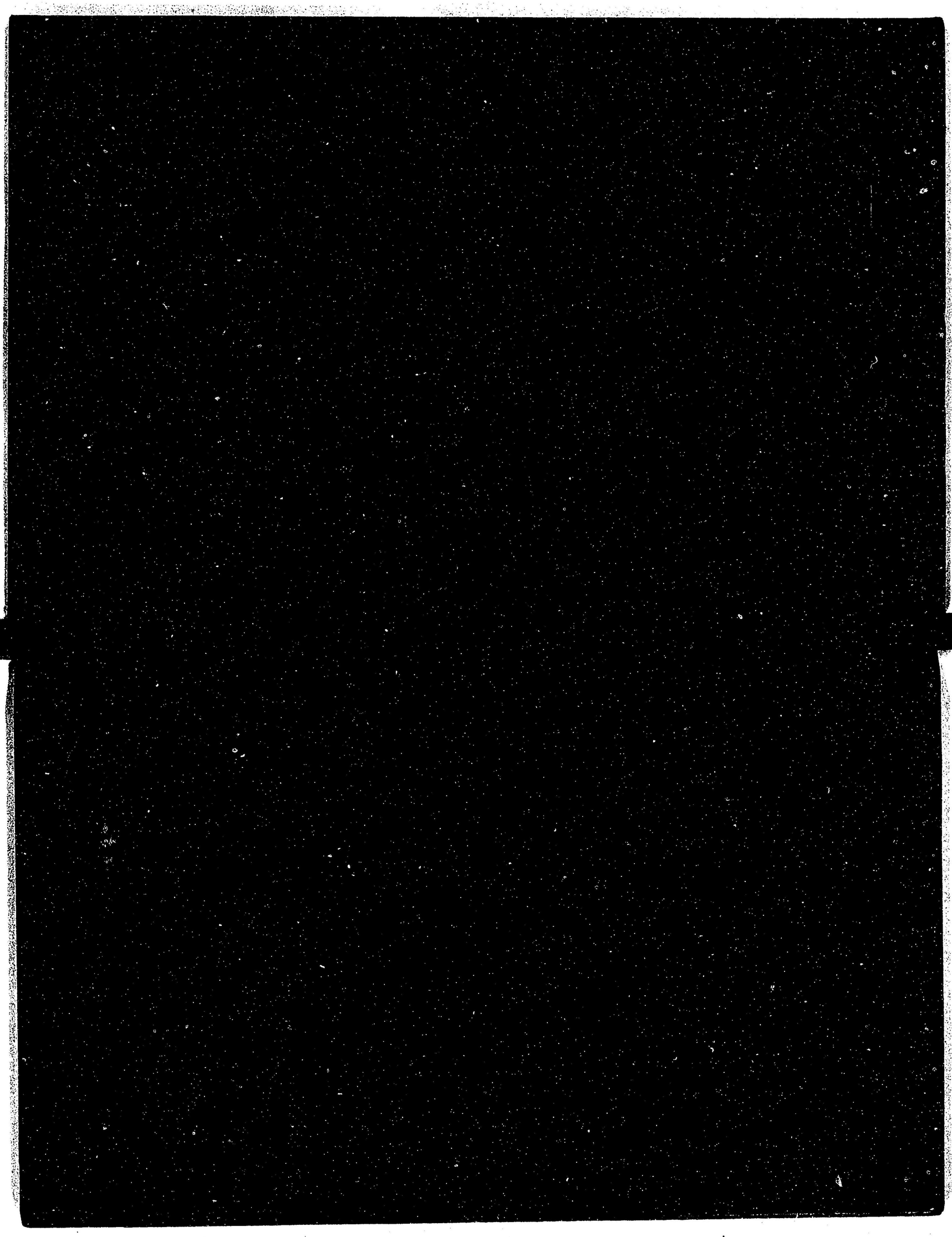


051443-000-8

324-232

現地講話

軍事学指針社

M44

BFB-0162